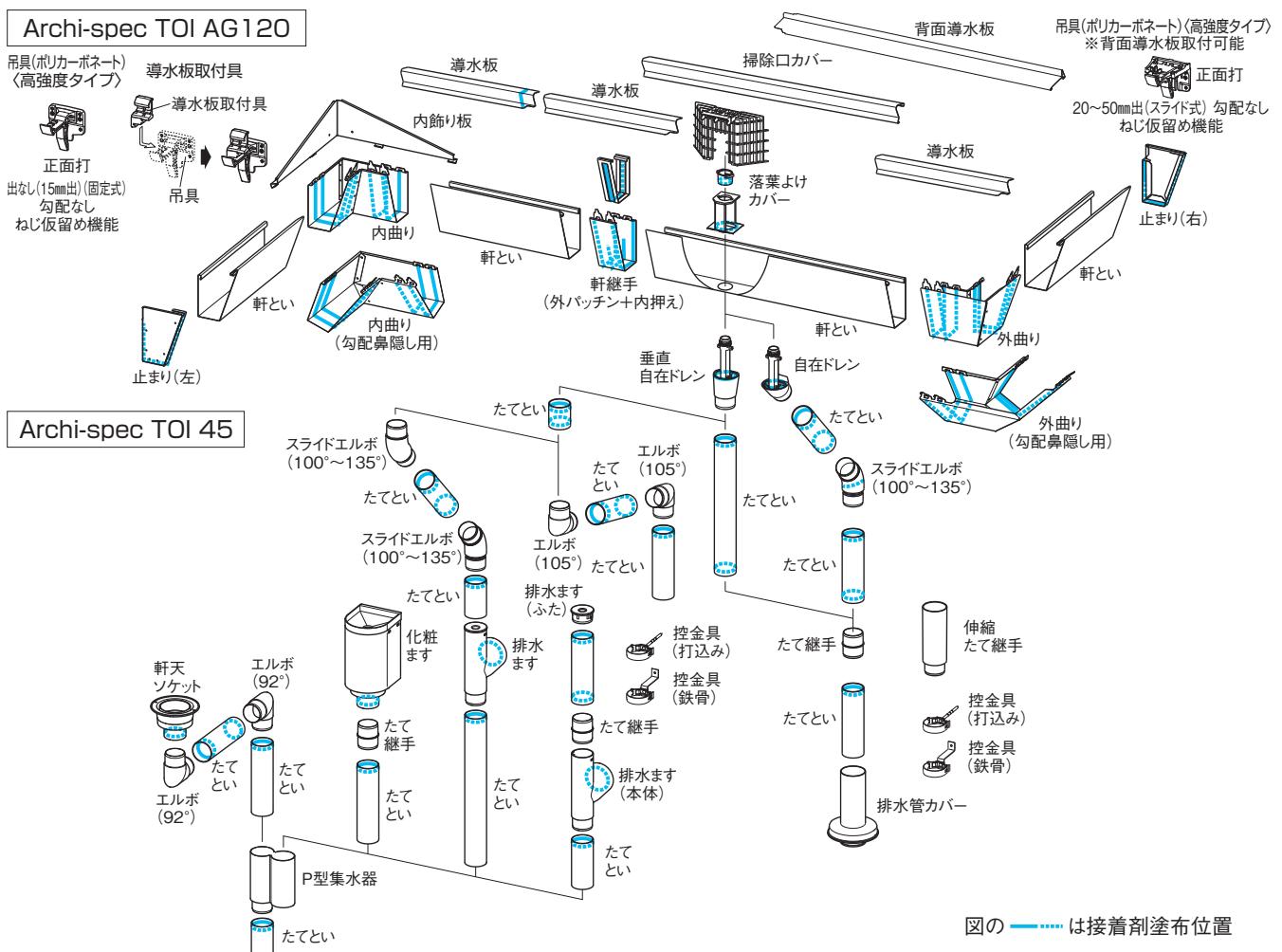


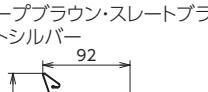
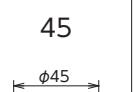
Archi-spec TOI : 設計・施工条件 排水システム図・軒とい容量・排水能力

1 部材・施工組立図



図の は接着剤塗布位置

2 軒とい容量・排水能力 (地域別降雨強度160、140、120、100mm/hを採用し、水勾配1/1000の標準の時、サイホン効果発生時)

軒とい			当社 たてとい の サイズ	◎軒とい、たてとい 組み合わせによる 排水能力(L/s)	地域別降雨強度での落し口1か所当たりの適応屋根投影面積			
品種	名称・ サイズ	形状・寸法(単位:mm)			降雨強度 160mm/hの時	降雨強度 140mm/hの時	降雨強度 120mm/hの時	降雨強度 100mm/hの時
アーキ・スペツクトイ A G 120	色:ディープブラウン・スレートブラック・ マットシルバー			45 1.2	26m ² 以下	30m ² 以下	35m ² 以下	42m ² 以下

降雨強度とは

降雨強度とは

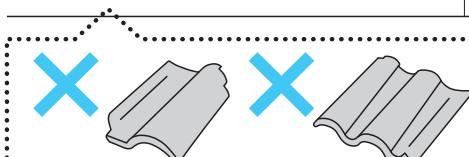
降雨量をいはう。地域別降雨強度は、気象庁発行の「日本の気候表」の中に掲載されている10分間降雨量から、5~6年に1度位現れる程度の特別な豪雨を除いた降雨量を基準として、1時間当たりに換算したものです。

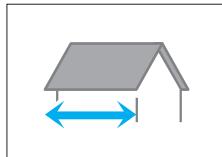
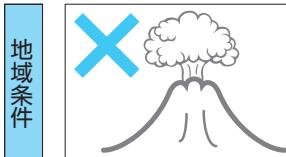
地域別降雨強度	160mm/h	140mm/h	120mm/h	100mm/h
凡 例				
該当 都道府県名	三重、和歌山 高知、鹿児島 沖縄	茨城、千葉 栃木、群馬 埼玉、長野 静岡、愛媛 福岡、佐賀 長崎、宮崎	青森、岩手、秋田 宮城、福島、東京、 神奈川、山梨、 富山、石川、福井、 岐阜、愛知、滋賀、 京都、大阪、奈良、 兵庫、鳥取、島根、 岡山、広島、山口、 徳島、香川、大分、 熊本	北海道、山形 新潟

Archi-spec TOI : 設計・施工条件

各種施工条件

1 対応屋根材 / 軒先・軒先仕様・地域条件

対応屋根材・軒先	軒先形状	勾配鼻隠し 120mm~	垂直鼻隠し 150mm~	軒ゼロ
	対応屋根材	120~	150~	
	平形屋根用スレート 屋根勾配 2.5~6寸※	180mm以上は 垂直自在ドレンを使用	210mm以上は 垂直自在ドレンを使用	○
	金属屋根 ・垂直鼻隠し:6寸まで ・勾配鼻隠し:4.5寸まで	180mm以上は 垂直自在ドレンを使用	180mm以上は 垂直自在ドレンを使用	○
	ROOGA 雅/鉄平 屋根勾配 3~5寸※	×	180mm以上は 垂直自在ドレンを使用	○
	粘土瓦・セメント瓦 屋根勾配 2.5~6寸※	×	180mm以上は 垂直自在ドレンを使用	○
 <p>■粘土瓦・セメント瓦の対応形状について J形、F形は問題なくご使用いただけますが、S形などの特殊な形状によっては、雨水が雨といを飛び越えるおそれがあります。</p>				
<p>※詳細はウェブサイトなどの納まり図を参照ください。</p>				

軒先仕様			地域条件		
	Max20m 軒先水平距離 最大20mまで	Max4m すがり屋根けらば部 最大4mまで		火山地域	温泉地域

Archi-spec TOI：設計・施工条件／各種施工条件

■納まり図のダウンロード

- 納まり図、CAD図面などの詳細は当社パナソニックホームページで「Archi-spec TOI」、「アーキスペックトイ」を検索し、「推奨納まり一覧」および「軒先設計サポートツール」をご確認ください。

※ホームページの内容は上記と異なる場合がございます。

ア設計・施工条件
アーキスペックトイ
各種施工条件

2 ケラバ通水 対応屋根仕様

■ケラバ通水 対応軒先形状

軒先形状		ケラバ通水
勾配鼻隠し	勾配軒天井	
	水平軒天井	
垂直鼻隠し	勾配軒天井	
	水平軒天井	
	軒天ゼロ (勾配屋根)	

①軒とい吊具の施工

1 地域別の吊具ピッチの基準

■雪対策(各地方の垂直最深積雪量に応じて、吊具の取り付けピッチを決定する。)

地域	一般地域	中雪地域	多雪地域									
種類	積雪量(cm)	0	20	40	60	80	100	120	140	160	180	200
吊具(ポリカーボネート) (高強度タイプ)	1000mm以内		600mm以内		450mm以内 (垂直鼻隠し+導水板なし)		ケイミュー(株)営業所へ お問い合わせください。					

・積雪地(中雪地域、多雪地域)では、必ず屋根面に「雪止め」を取り付けてください。

S瓦・和瓦など谷部が深い瓦の場合は、谷部を避けて吊具を取り付けてください。

■風対策

対象品種	吊具(ポリカーボネート) (高強度タイプ)		
建物高さH(m)	9m未満	9~13m未満	13~31m未満
地域(風速: Vo)	(3階建て以下)	(4階建て以下)	(10階建て以下)
一般地域 (Vo=30~38m/s)	1000mm以内	600mm以内	
強風場所	600mm以内	450mm以内	
強風地域 (Vo=40~46m/s)	600mm以内	450mm以内	

■強風場所の例

海岸・湖岸から 200m以内の 場所	風よけのない 田園地帯	崖上	谷あい地

・強風地域は、強風場所の指定はありません。(すべて強風場所としてみなしています。)

・建物高さ31mを超える(11階建て以上)場合は、ケイミュー(株)営業所へご相談ください。

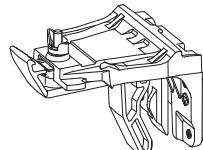
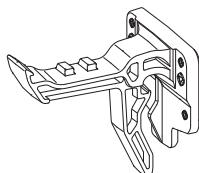
2 吊具の固定

■吊具の種類と選定

吊具(ポリカーボネート製)
(高強度タイプ)
正面打・出なし(15mm出)
固定式

導水板
取付具

吊具(ポリカーボネート製)
(高強度タイプ)
正面打・20~50mm出
スライド式



※スライド調整3mm刻み

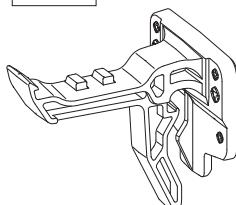
■部材組み合わせ対応表

吊具	固定式	固定式+導水板取付具	スライド式
導水板 KZA□060			
背面導水板 KZA6069			

●鼻隠しの勾配と軒先瓦出寸法に応じて、金具を選定してください。

・固定式は出寸法の
調整ができません。

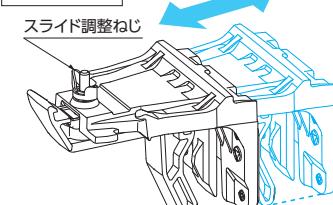
固定式

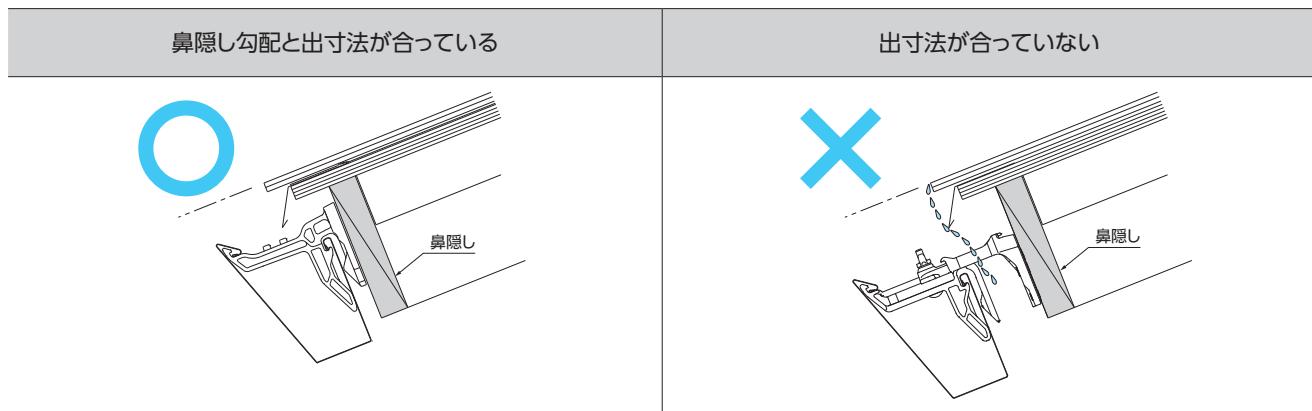


・スライド式は出寸法の調整ができ、
軒先の出寸法が分からぬ場合や、
軒先形状が複雑な場合に
おすすめです。

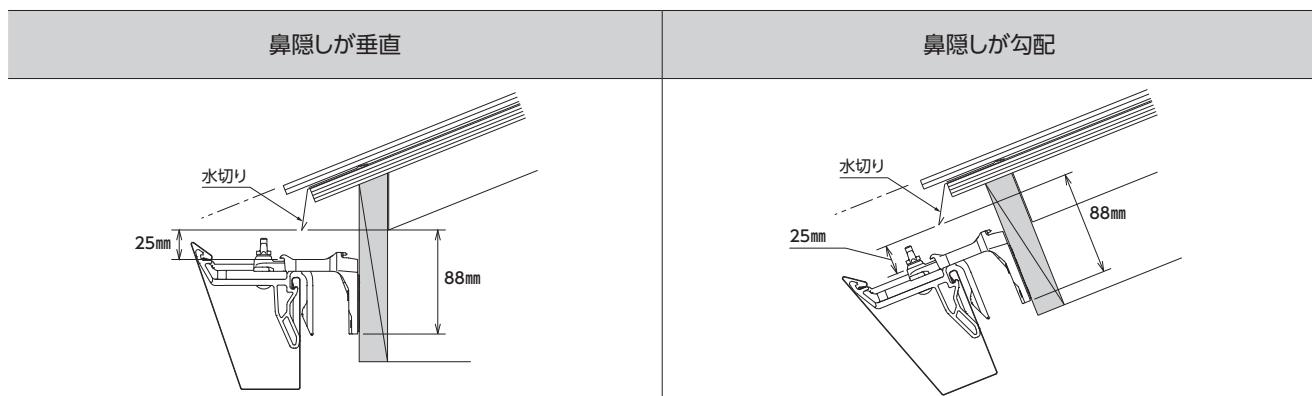
・スライド調整ねじは位置調整後、
動かないように必ず締め付けて
ください。

スライド式

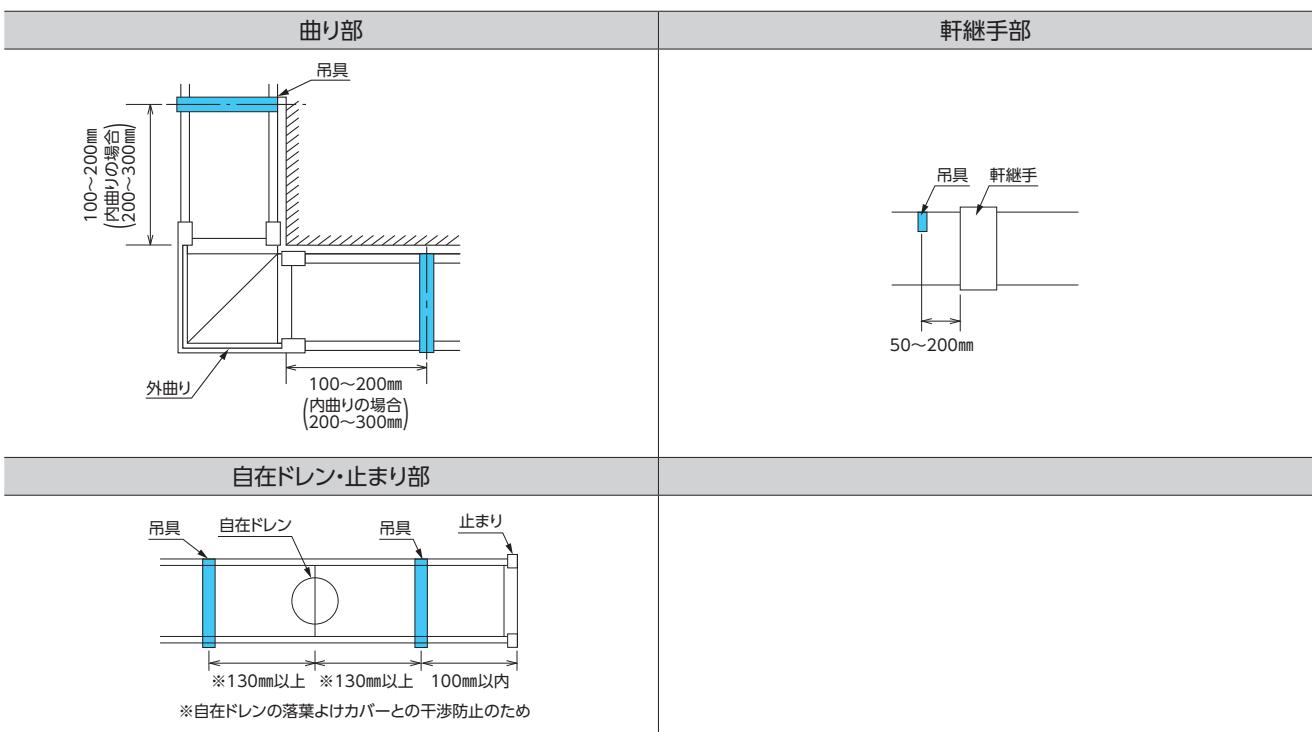




- 背面導水板を施工する場合は、既存の水切りと吊具の間を25mmあけてください。



■吊具施工位置図(吊具取り付け間隔600~1000mm以内の場合)

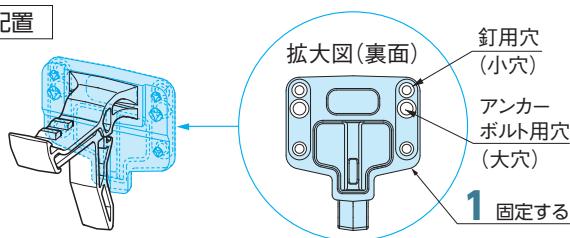


- クレオソート・ネジロック剤・ペンキ・ラッカー・接着剤の塗布、ドライヤーによる過熱、有機溶剤(アセトン、キシレン)・アルカリ(アンモニア、苛性ソーダ、セメント系)の塗布・接触させない。劣化(クラック発生など)により、軒といが外れかがをするおそれがあります。
- 施工時、および保管時に吊具が塩ビ鋼板や軟質塩ビ(防水シートなど)に接触させない。吊具が劣化し、軒といが外れかがをするおそれがあります。

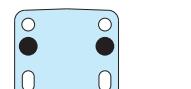
Archi-spec TOI：軒といの施工方法／①軒とい吊具の施工

- 釘使用時は釘用穴4か所で固定する。
アンカーボルト使用時はアンカーボルト用穴2か所を使用する。

参考穴配置



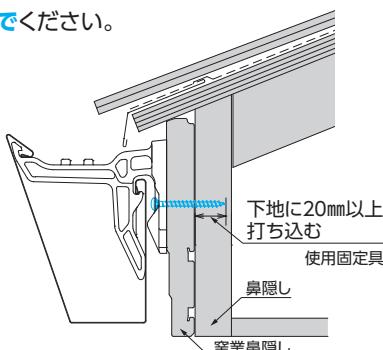
- 鼻隠し下地に適したタッピンねじ、釘、アンカーボルトおよび使用穴を選択してください。

鼻隠し下地	使用固定具	固定釘・ねじ類サイズ	使用穴	
			吊具(ポリカーボネート製)対象品種	
木	釘	φ2.4mm以上		釘用穴 (4か所)
	木ねじ	φ3.5mm以上		
		φ4.1mm以上		
鉄	タッピンねじ	φ5mm以上		アンカーボルト用穴 (2か所)
ALC	ALC用アンカーボルト	φ6mm以上		
RC	アンカーボルト	φ6mm以上		

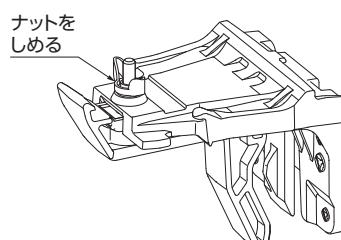
- ALCへの直接施工はお避けください。万一施工される場合は、Lアングル(現地調達品)などで補強してください。
- 固定釘類は鉄製を使用しますと赤さびが発生するおそれがありますので、さびにくいステンレス製をおすすめします。
- 釘、ねじなどは下地材(窓業系鼻隠しなどは含まない)から20mm以上打ち込んでください。

ポイント

- 釘、ねじは下地材(鼻隠し、木質下地材など)に20mm以上打ち込んでください。



- スライド式の金具は金具取り付け後出寸法を合わせてナットをしっかりと締め付け、動かないか確認してください。



!
注意



必ず守る

- 積雪・強風地域での「金具間隔・納まり」は、積雪、強風地域仕様を必ず守る軒といの外れ、落下により、けがをするおそれがあります。

吊具(ポリカーボネート製)を使用する場合

- 鼻隠しの不陸を確認してください。不陸は5mm以内にしてください。
- 固定に使用する木ねじ、タッピンねじはナベねじをご使用ください。

皿ねじ、ラッパねじは吊具の性能が低下するため落下し、けがをするおそれがあります。



吊具・導水板取付具(ポリカーボネート製)を使用する場合

- クレオソート・ねじロック剤・ペンキ・ラッカーラー・接着剤の塗布、ドライヤーによる過熱、有機溶剤(アセトン、キシレン)・アルカリ(アンモニア、苛性ソーダ、セメント系)の塗布・接触は劣化(クラック発生など)の原因となりますのでご使用はお避けください。
- 施工時および保管時に吊具、吊金具が塩ビ鋼板や軟質塩ビ(防水シートなど)に接触しないようにしてください。(吊具、吊金具の劣化防止のため)

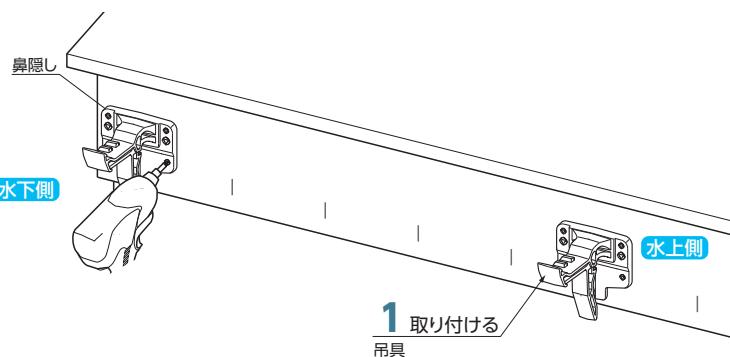
吊具・導水板取付具の劣化により、軒といが外れ落下し、けがをするおそれがあります。

ア軒とい施工方法
ーキ・スペックトイ
トイ

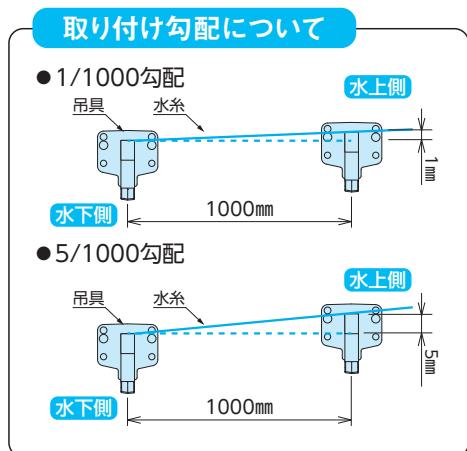
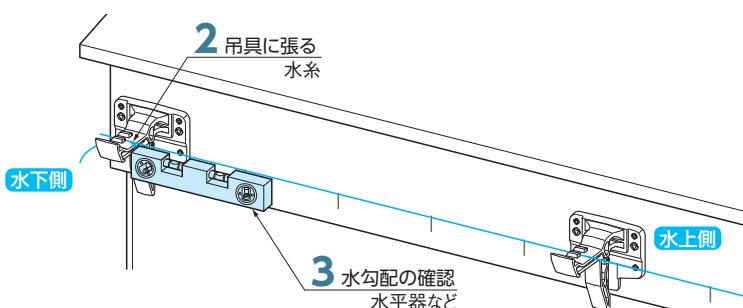
①軒とい吊具の施工

3 吊具の取り付け

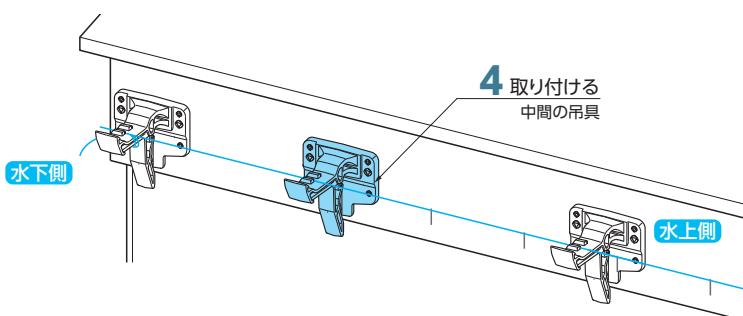
- 1 屋根延長線を確認し、水上位置と水下位置の金具を取り付ける。



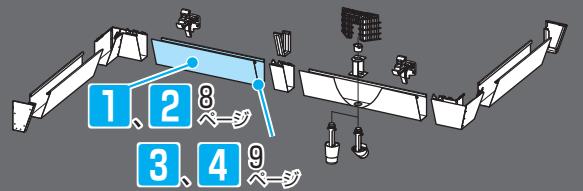
- 2 両端の吊具に水糸を張る。
- 3 水平器などを使って水勾配が正しくとれているか確認する。
逆勾配にならないよう気をつける。



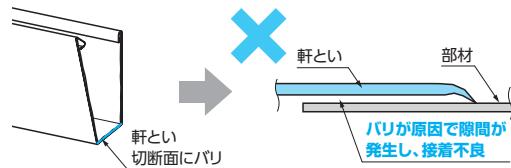
- 4 水糸に従い割り付け位置に合わせて、中間の吊具を取り付ける。



②軒といの切断



- バリ取りをする時は必ず金切りばさみ、ヤスリなどを使う
切断面のバリは必ず取ってください。
隙間が発生し水漏れの可能性があります。

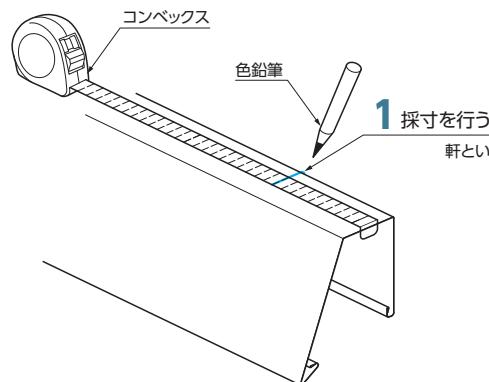
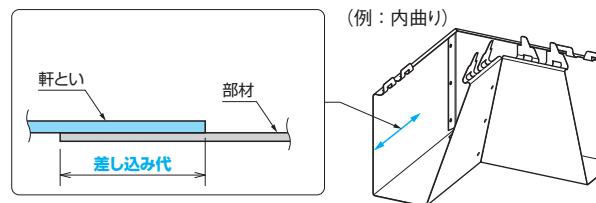


1 軒といの採寸

1 コンベックスを使って施工に必要な軒といの長さの採寸を行う。
採寸の際は、差し込み代を考慮してください。

ポイント

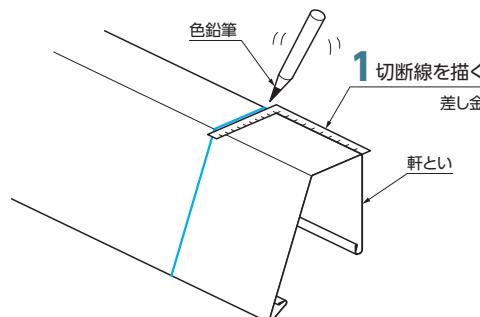
- 軒といひの採寸は部材の差し込み代分を含めて採寸してください。



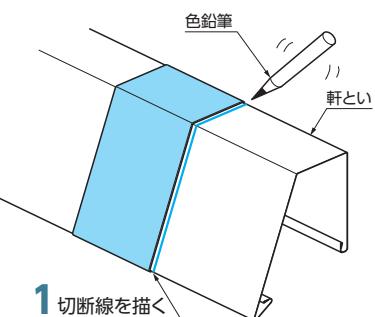
2 軒といの切断

1 軒といの切断箇所に差し金などをあて、
切断線を描く。
(直角切断)

【差し金を使う場合】



【軒継手（外パッキン）を使う場合】



2 軒といは金切りばさみ、充電パワーカッターなどで切断する。

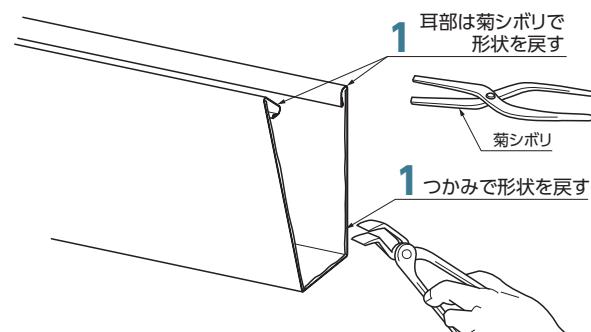


3 > 切断面の補修

- 1 軒とい切断面のバリや変形の修正をする。
(金切りばさみを使用した場合)

お願い

- 切断面のバリは軒継手や曲りの取り付け時に隙間が発生する場合がありますので必ず取ってください。
(水漏れ防止のため)
- 切断面は接着剤を塗布し、端面処理をした方がさびの防止に効果的です。



必ず守る

- 取り扱い時および切断部のバリ取りは、必ず手袋(革手袋、ゴムライニング手袋同等品)を着用する
小口や切断面のバリだけがをするおそれがあります。

ア軒といの施工方法
キー・スペックトイ
↓

②軒といの切断

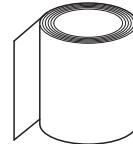
4 > 軒とい補修方法

補修塗料 80g/缶



- 軒といに傷がついた場合に補修塗料をご用意しております。
(ハケ同梱)

加工用平板



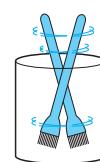
- 鼻隠し板を同色に合わせる際の加工用平板をご用意しております。

【補修塗料 ご使用上の注意】

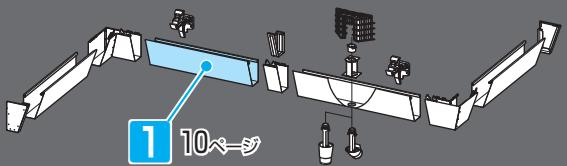
- Archi-spec TOI(軒とい系列、導水板系列)以外には使用しないでください。
- 補修塗料は表面の傷や部材端面を補修するためのものです。大きな面積に塗ると目立つ場合があるのでご注意ください。
- 有効期限の過ぎた補修塗料は使用しないでください。
- 気温が5°C以下の日や雨天時は作業しないでください。
- 補修する部分の油やごみをよくふき取って、乾いた上に塗装してください。
- 使用前に中味をよく振り、同梱のハケで底にたまつた固まりを十分均一になるまで(目安: 30秒以上)かくはんして使用してください。
- 塗装後、2時間位の間は雨や水がかからないようにしてください。
- 通常は原液で使用してください。原液で塗装しにくい時はラッカーシンナーで薄めてご使用ください。

【補修のポイント】

- 補修面: 塗装面の清掃、乾燥をしてください。
- 塗料の調整: 中味をよく振り、かくはんしてください。
- 塗料の確認: 試し塗りをし、乾いた状態で色が合っていることを確認してください。
- 塗料の塗布: 塗装面にタれないように塗ってください。
※タレた場合はなるべく早くきれいな布などでふき取ってください。
※塗布量により色味が異なる場合があります。最初は薄く塗布してください。
- 乾燥: 常温乾燥タイプの塗料です。塗布後1時間以内は補修部分に触れないでください。



③軒といの施工



必ず守る

■前耳・後耳をしっかり吊具にはめ込む

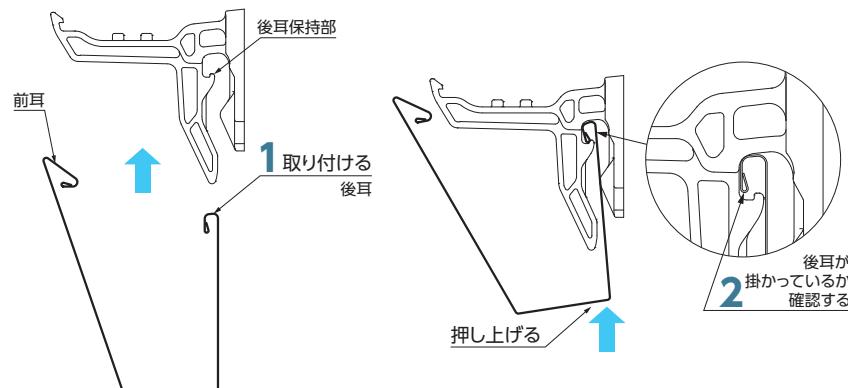
軒といの外れ、落下により、けがをするおそれがあります。

1 吊具への軒といの取り付け

1 軒といを後耳から取り付ける。

ポイント

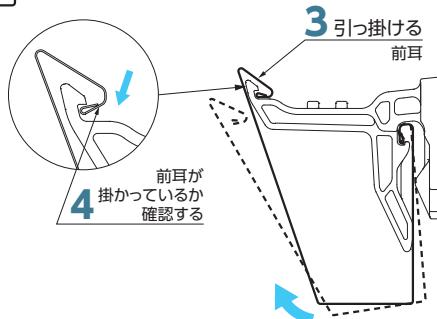
- 必ず後耳から取り付けてください。
前耳を入れた後には入ります。
- 軒といの後耳が吊具の挿入ガイドの外へ入らないようにしてください。



2 すべての吊具に後耳が掛かっているかを確認する。

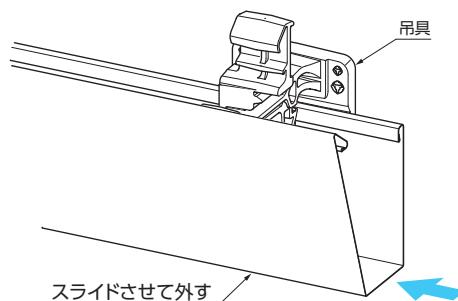
3 軒といの前耳を引き上げるように吊具に引っ掛ける。

4 軒といの前耳部が確実に挿入されていることを確認する。



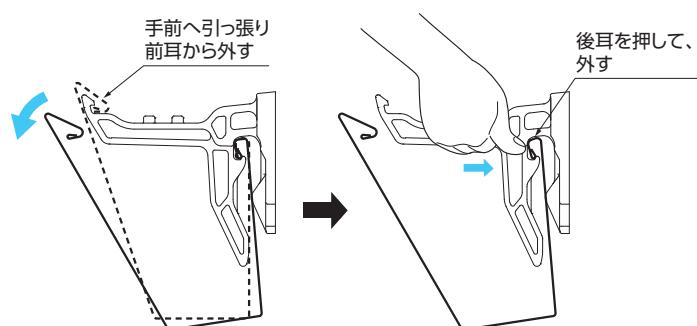
【軒といの外し方(軒継手、曲りが取り付いていない場合)】

- 軒といを横にスライドさせて外す。

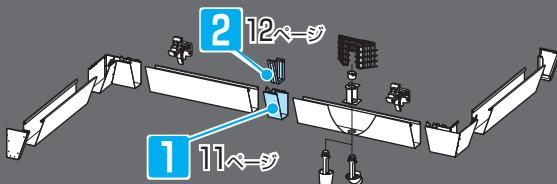


【軒といの外し方(軒継手などでスライドできない場合)】

- 軒といを外す場合は逆の手順で外す。



④軒継手の施工



必ず守る

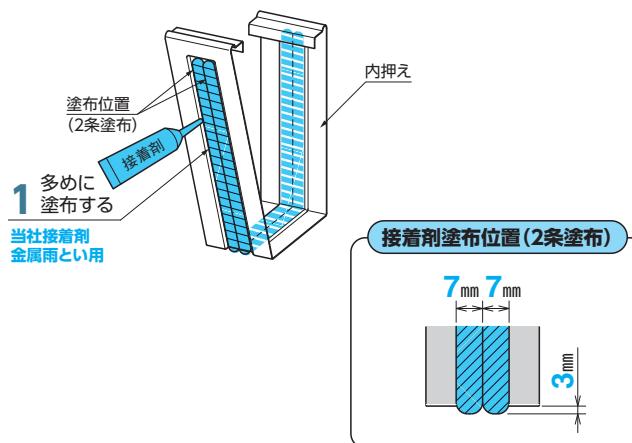
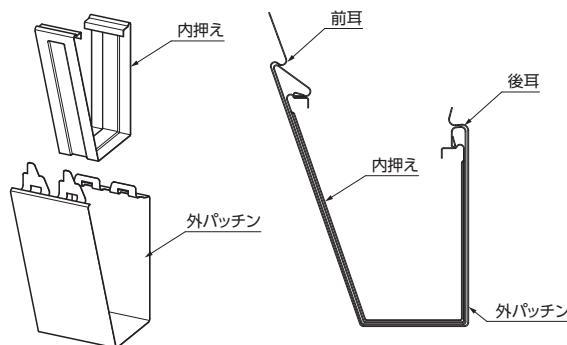
■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1 軒継手(内押え)の取り付け

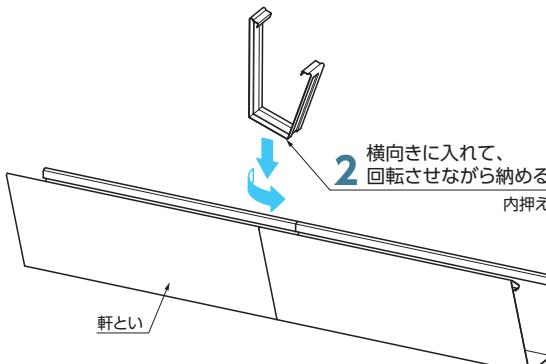
1 内押えの軒とい接着面に接着剤を全周ひも状に 切れ目なく塗布する。

軒といの内面のため、はみ出しても
外観上問題ありません。

(当社接着剤金属雨とい用)



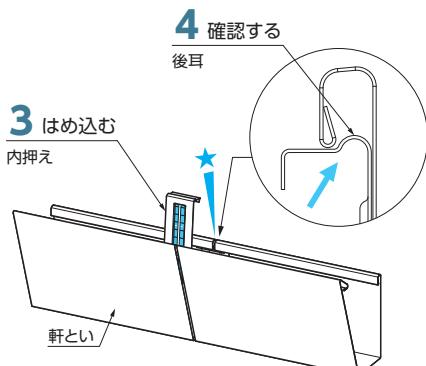
2 内押えを軒といの内側に入れ込む。



3 内押えを軒といの前耳と後耳の内側に はめ込む。

ポイント

- 接着剤をかき削らないように入れ、軒といの継ぎ目が内押えの中央にくるように合わせてください。

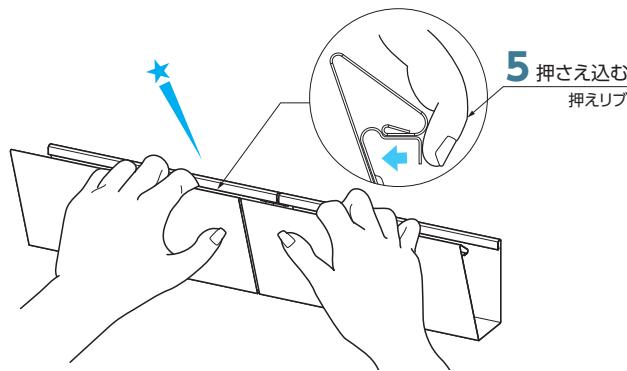


4 確実にはめ込まれているか確認する。

5 内押えの押えリブに指をかけ、上から押さえ込む。

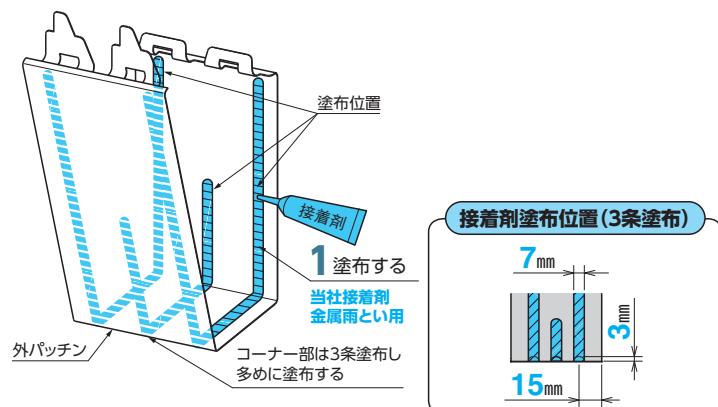
お願い

- 接着剤が軒とい・軒継手の外側にはみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分が変色しますので布ですばやくふき取ってください。



2 軒継手(外パッキン)の取り付け

1 外パッキンの軒とい接着面に接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)



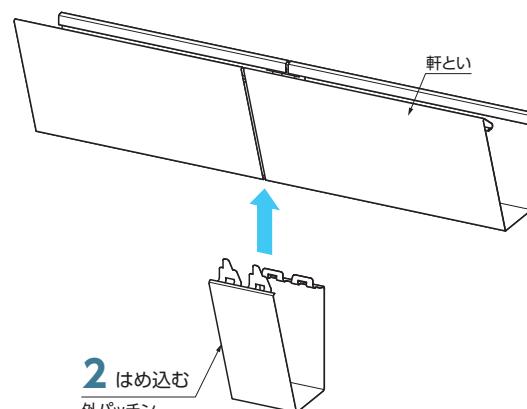
2 外パッキンを軒といの下から押し上げる
ようにはめ込む。

ポイント

- 軒といの継ぎ目が軒継手の中央にくるように合わせてください。

お願い

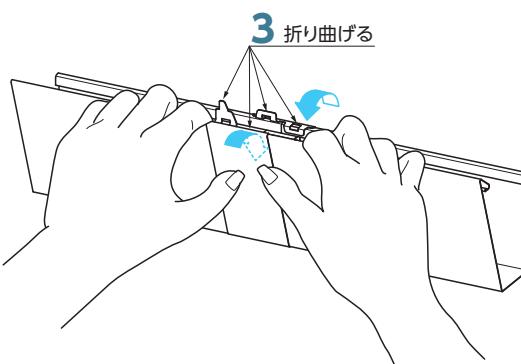
- 接着剤が軒とい・軒継手の外側にはみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分が変色しますので布ですばやくふき取ってください。



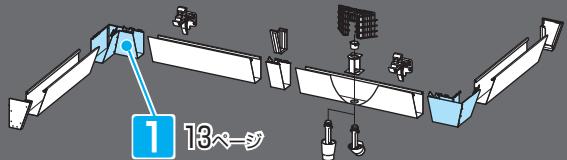
3 外パッキンの前後の爪を折り曲げる。

ポイント

- 後耳に指が届かない場合、あらかじめ軒といの後耳の形に合わせ、爪を曲げ後耳に引っ掛けて取り付けてください。



⑤内曲り、外曲りの施工



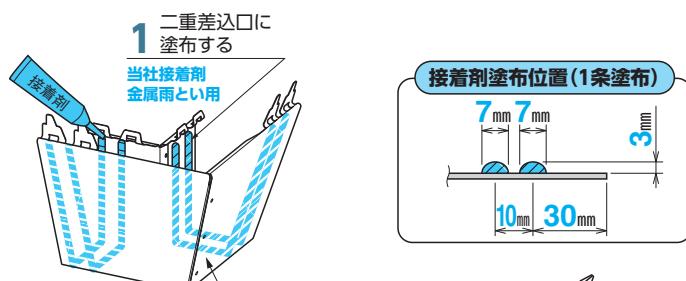
■接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

ア 軒といの施工方法
ー キ・スペックトイ

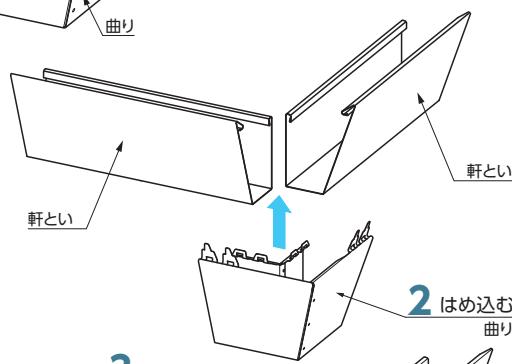
⑤ 内曲り、外曲りの施工

1 曲りの施工

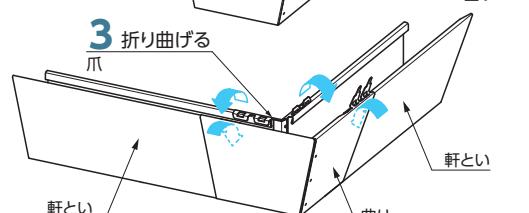
- 1 曲りの軒とい接着面に接着剤を
全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)



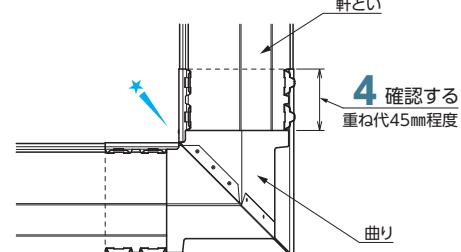
- 2 曲りの下から押し上げるようにしてはめ込む。



- 3 曲りの前後の爪を折り曲げる。

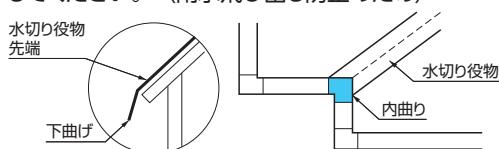


- 4 軒といの重ね代が45mm程度か確認する。



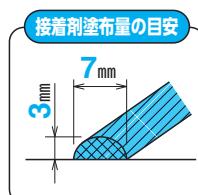
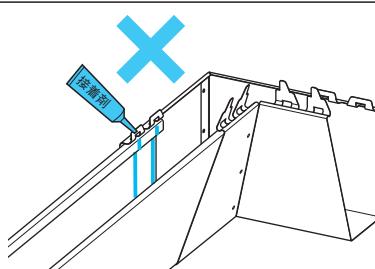
お願い

- 接着剤が軒とい・曲りの外側にはみ出したり、付着した場合、放置しておくとその部分が変色しますので布ですばやくふき取ってください。
- 内曲り箇所の水切り役物の軒先側先端は必ず下曲げしてください。(雨水飛び出し防止のため)

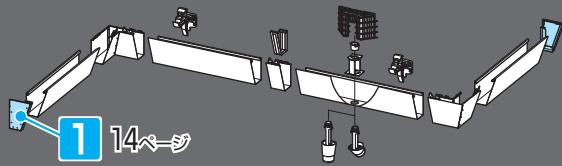


お願い

- 当社品以外の接着剤を使用しますと、変形・割れが発生するおそれがありますので、必ず当社接着剤をお使いください。
- 当社タニシールなどシーリング剤を使用すると水漏れのおそれがあります。



⑥止まりの施工

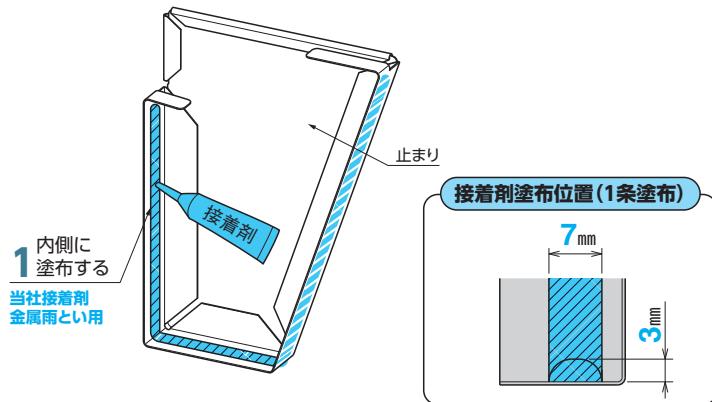


必ず守る

■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1 止まりの施工

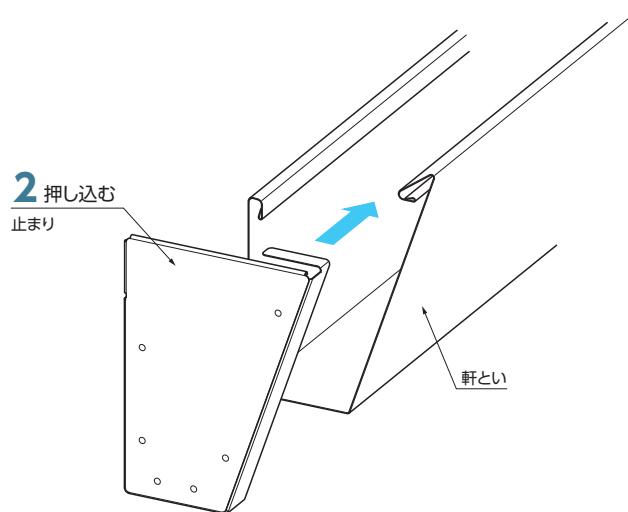
- 1 止まりの内側に接着剤を全周ひも状に
切れ目なく塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)



ア軒といの施工方法
一キ・スペックトイ

⑥止まりの施工

- 2 軒といが止まりの奥まで入るように、
止まりを押し込む。

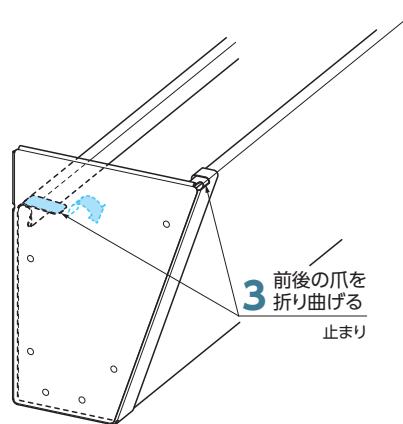
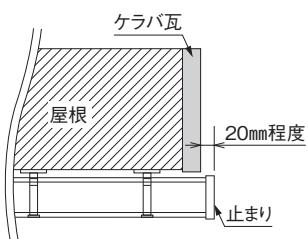


- 3 止まりの前後の爪を折り曲げる。

お願い

●接着剤が軒とい・止まりの外側に、はみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分が変色しますので布ですばやくふき取ってください。

●一般的な切妻屋根の場合、軒といをケラバ瓦より20mm程度出して雨水を受けるようにしてください。



⑦ケラバ通水の施工

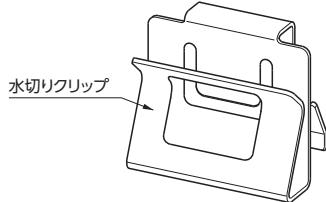


■水切りクリップと水切りが確実にはまっていることを確認する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1

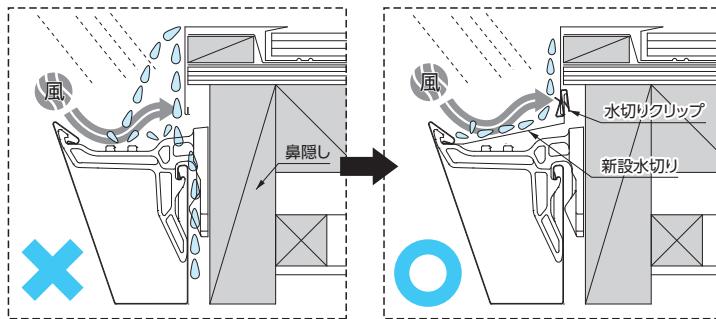
けらば通水部の雨水廻り込み防止施工

- 鼻隠し側への雨水の廻り込み防止の施工を行う際は、水切りクリップ(MQ999Y)を使用して、水切りを新設する。
鼻隠し側への雨水廻り込み防止の施工を行う際にご使用いただける「便利部材」です。



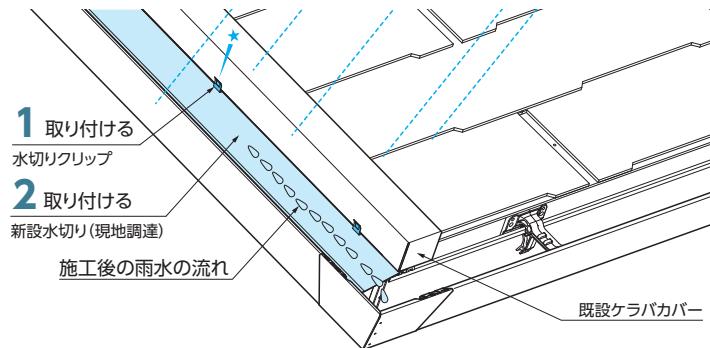
■ 鼻隠し側への雨水の流れ

雨水が水切りを伝って、雨といの後ろ側へ廻る。



1 水切りクリップを新設水切りに取り付ける。

2 新設水切りを水切りクリップで、既設水切りに取り付ける。



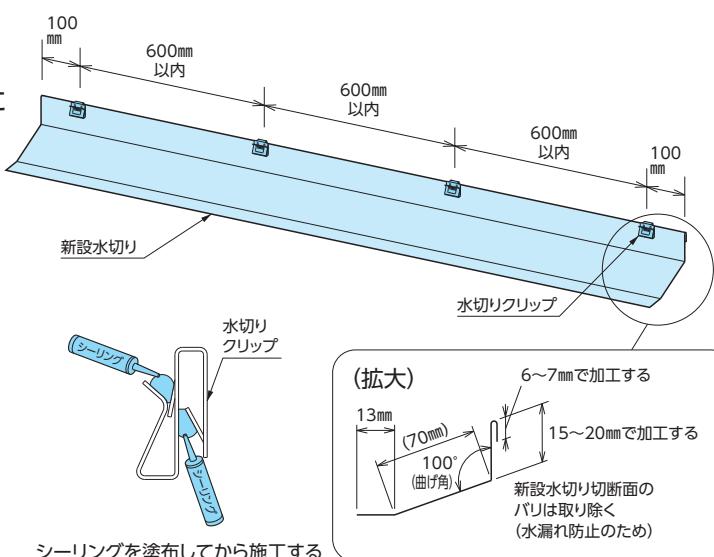
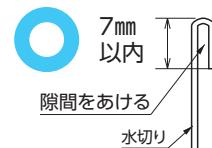
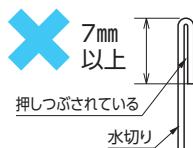
1

水切りクリップの取り付け間隔の確認

- 水切りクリップの取り付け間隔は、600mm以内が目安。
端部の水切りクリップは、端部から100mmの位置に取り付ける。

新設水切りに関するお願い

- 水切りは現場に合わせた寸法で製作してください。
- 水切りの折り返しが7mm以上の場合、
水切りクリップの取り付けができません。
- 水切りの折り返しが押しつぶされていると水切りクリップの取り付けができません。



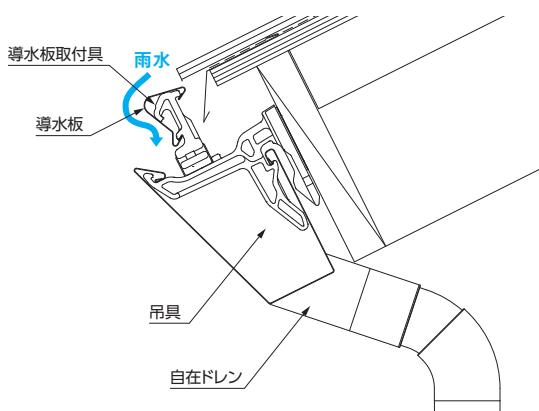
⑧導水板の施工(固定式吊具)

- 雨水は軒といと導水板の間から流れ込みます。

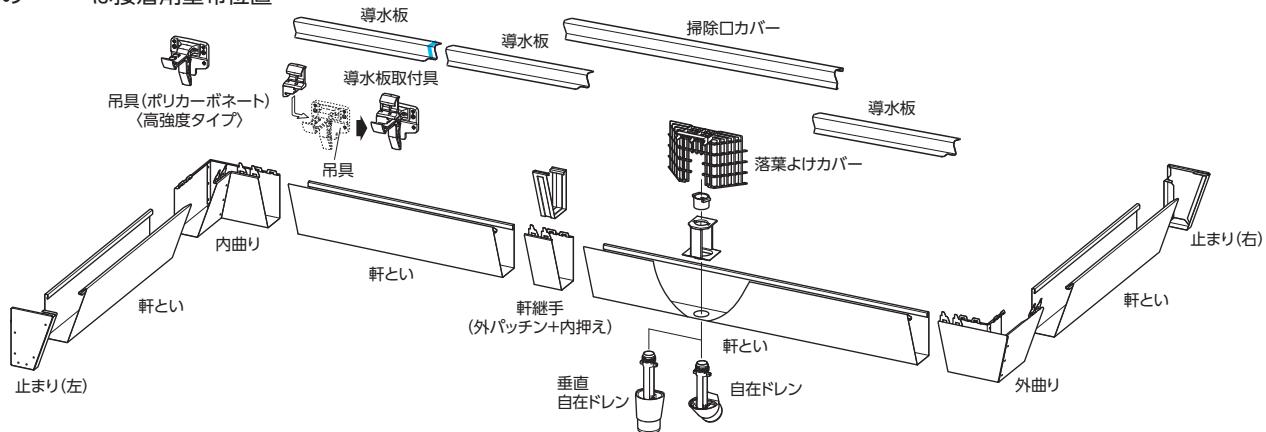
お願い

- 接着剤は外れ防止のために必ず塗布してください。
(当社接着剤金属雨とい用)

- 導水板は左から右へ順に施工する。

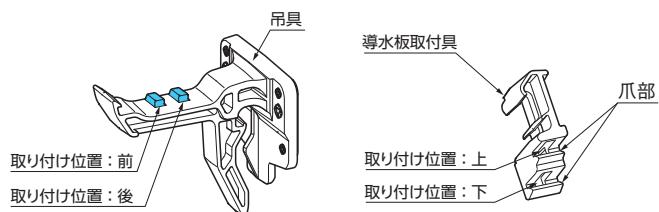


図の——は接着剤塗布位置

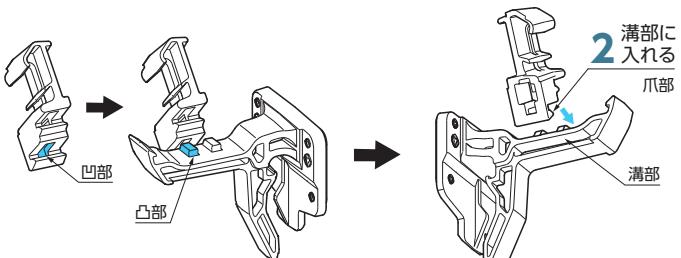


1 導水板取付具の取り付け

- 1 導水板は吊具と導水板取付具を使用して4パターン(前・後・上・下)の位置調整が可能です。次ページの「2.導水板取具の組み立てパターン」から、野地板の出寸法、鼻隠しサイズを確認し、吊具の取付位置を決める。



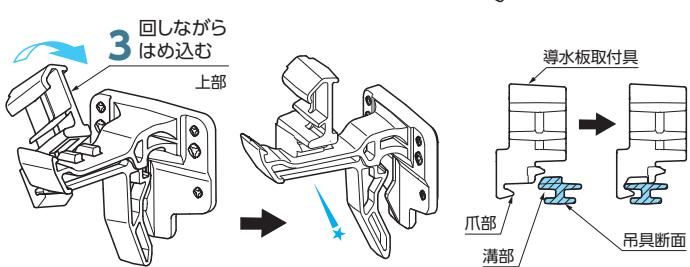
- 2 導水板取付具の凹部を吊具凸部に合わせながら爪部を吊具側面の溝部に入れる。
(右図は、吊具取付位置:前、導水板取付位置:下の場合)



- 3 導水板取付具の凹部に吊具凸部が入るよう導水板取付具上部を回しながらはめ込む。

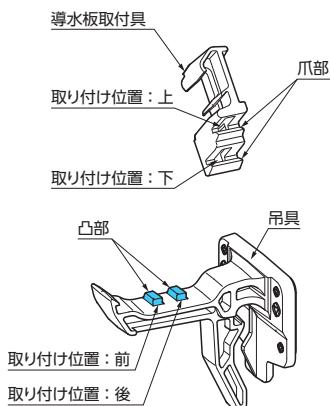
ポイント

- 導水板はあらかじめ、屋根の位置関係を考慮し設定してください。
屋根上に出るような位置になると軒といに雨水が入りません。

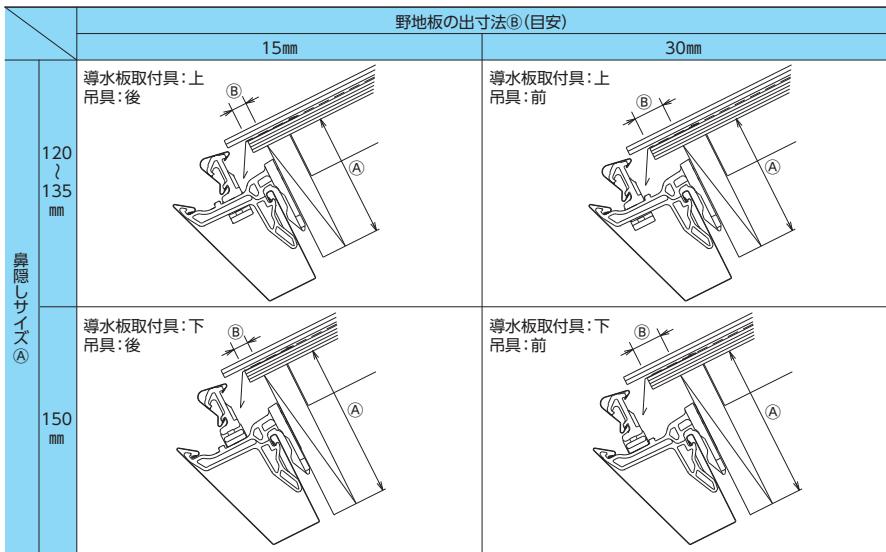


2 導水板取付具の組み立てパターン

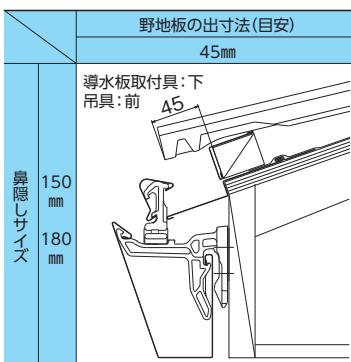
- 各表より、野地板の出寸法、鼻隠しサイズを確認し、導水板取付具の組み立てパターンを決定する。



■平形屋根用スレート



■瓦ROOGA

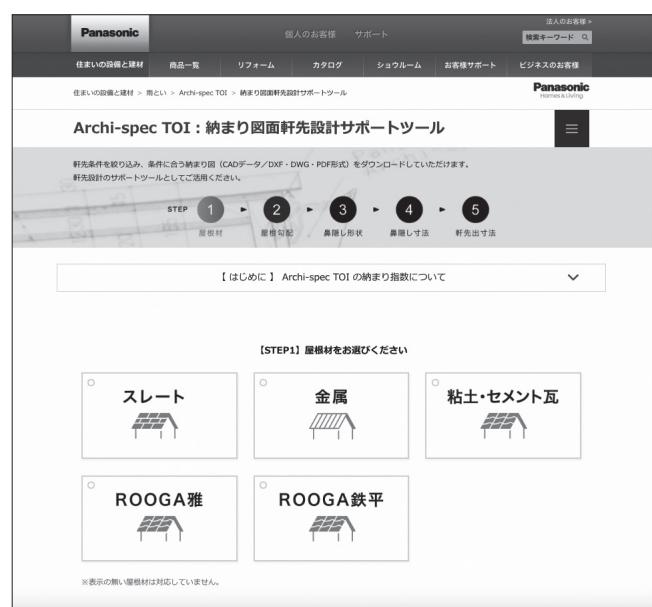


■瓦ROOGA 対応納まり基準

屋根勾配	3~5寸(5寸を超える場合は不可)
野地板出寸法	0mm
軒先水切り	ROOGA専用Z型水切(品番: DXZN)
鼻隠し勾配	垂直のみ(勾配鼻隠しは不可)
瓦の出寸法	5mm(45mm以上不可)
導水板	必ず必要

■納まり図のダウンロード

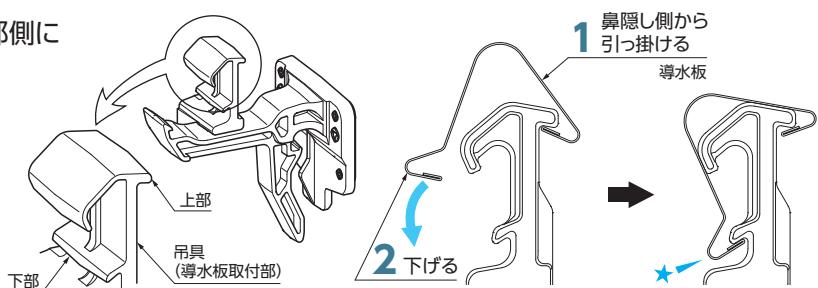
- 納まり図、CAD図面などの詳細は当社パナソニックホームページから「Archi-spec TOI」、「アーキスペックトイ」を検索し、「推奨納まり一覧」および「軒先設計サポートツール」をご確認ください。



※ホームページの内容は上記と異なる場合がございます。

3 導水板の取り付け

1 導水板取付具に導水板を図のように上部側に引っ掛ける。



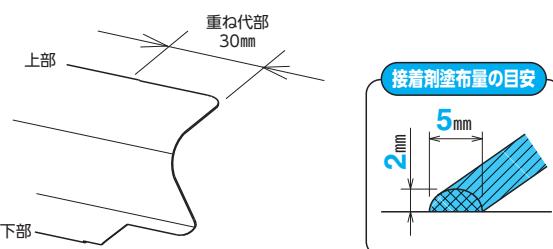
2 導水板をそのまま引き上げる。
(確実にはまり込んでいることを確認する)



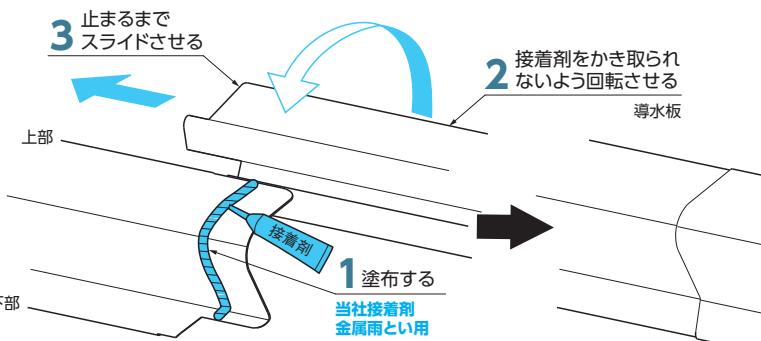
■軒とい、導水板、たてといは金具にしっかりと取り付いているか、確認する
落下により、けがをするおそれがあります。

4 導水板の接続

1 導水板の重ね代部に接着剤をひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)



2 接着剤を塗布した導水板に、導水板の上部側から回転させながらかぶせる。



3 横に止まるまでスライドさせる。

お願い

- 接着剤をかき取らないように注意してください。
- 接着剤が導水板の外側に、はみ出したりまたは付着した場合、放置しておくとその部分が変色しますので、布ですばやくふき取ってください。



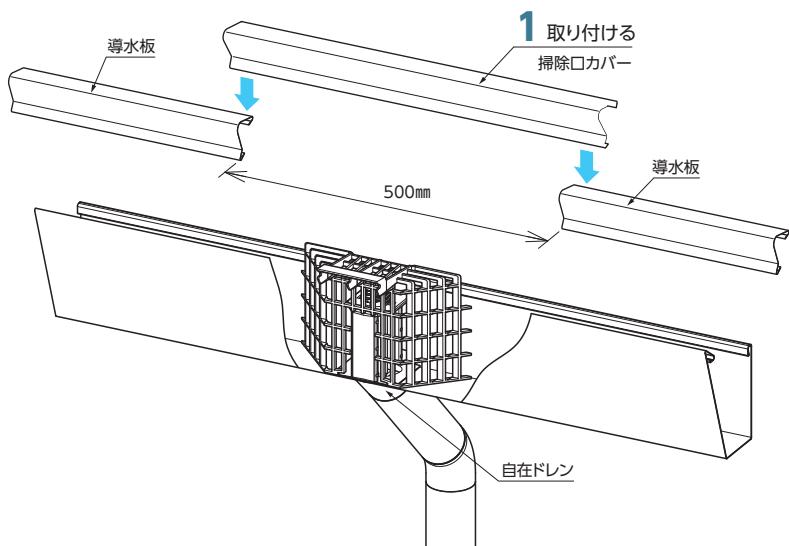
■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

5 隅除口部の施工

1 軒といの自在ドレン取り付け箇所に掃除口カバーを取り付ける。

お願い

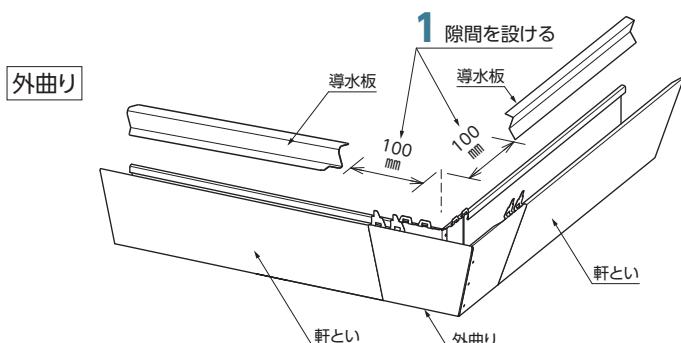
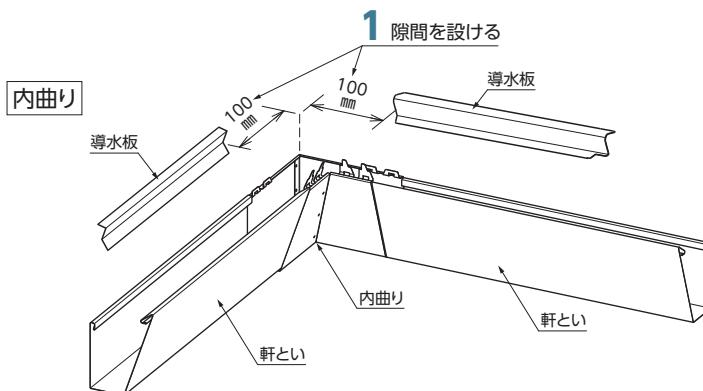
- 掃除口カバーをかぶせる導水板本体は2本以上の吊具で固定してください。
- 掃除口カバーは自在ドレンの付近にたまつた落葉などのごみをこのカバーを開けて掃除するためにあります。掃除口カバー取り付け時、導水板本体へは接着しないでください。

ア軒といの施工方法
一キ・スペックトイ

⑧導水板の施工(固定式吊具)

6 外曲り、内曲り部の施工

1 外曲り、内曲り部では導水板を突き合わせにせず、100mm程度隙間を設ける。

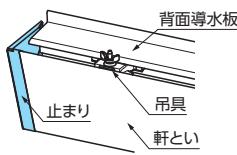


⑨背面導水板の施工(スライド式吊具)

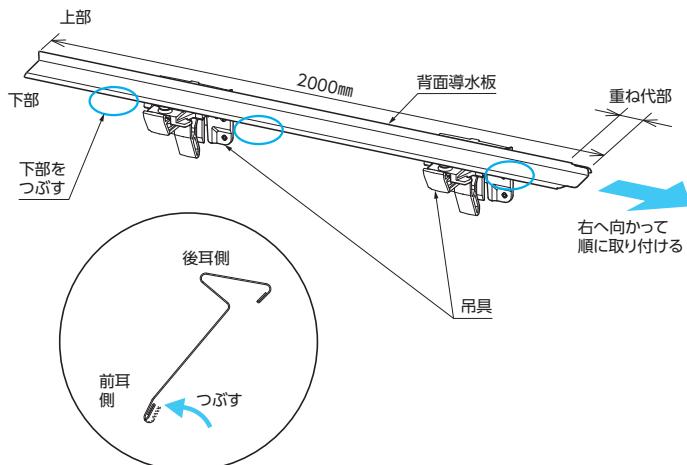
1 背面導水板の取り付け

ポイント

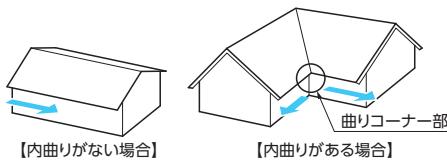
- 背面導水板は、止まり勝ち施工になります。
(背面導水板よりも先に軒といを施工して
いただくと、位置が合わせやすくなります。)



- 印部は、本体のスライド防止のため、前耳をつぶす加工を行ってください。



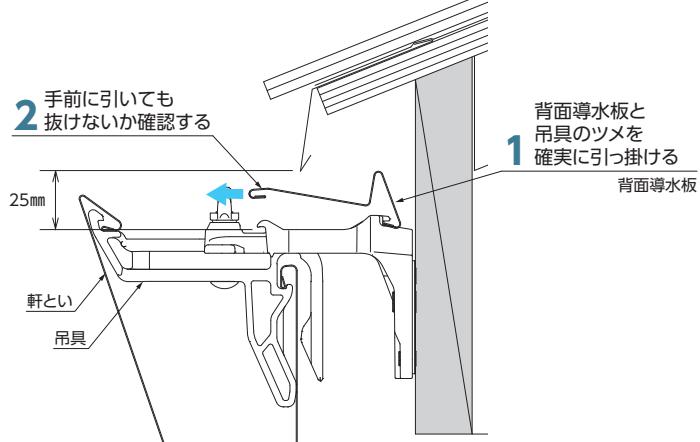
- 背面導水板は、左端から施工してください。
※内曲りコーナーがある場合は、コーナー部
から施工してください。



1 背面導水板の後耳側の爪を吊具後側の爪部に引っ掛ける。

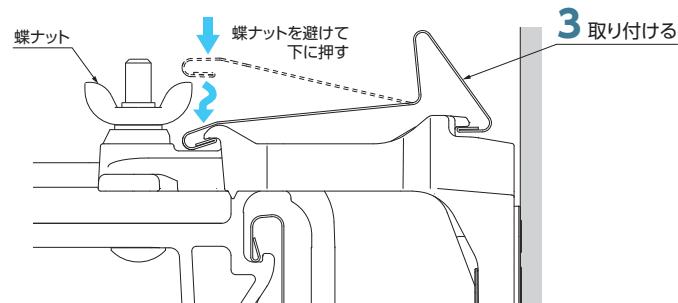
ポイント

- スライド吊具と既存の水切りの間は
約25mmあけてください。



2 背面導水板が手前に引いても抜けないか確認する。

3 背面導水板を手前に引きながら吊具前側の爪にカン合させる。 その際、蝶ナットを避けて取り付ける。

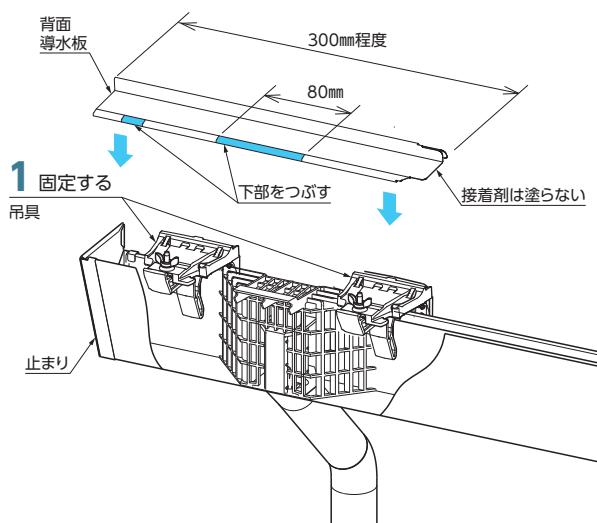


2 掃除口部の施工

- 1 落し口部材(自在ドレン)が軒とい端部にくる場合、
落し口部材(自在ドレン)の上は300mm程度の
背面導水板を吊具2本で固定する。

お願い

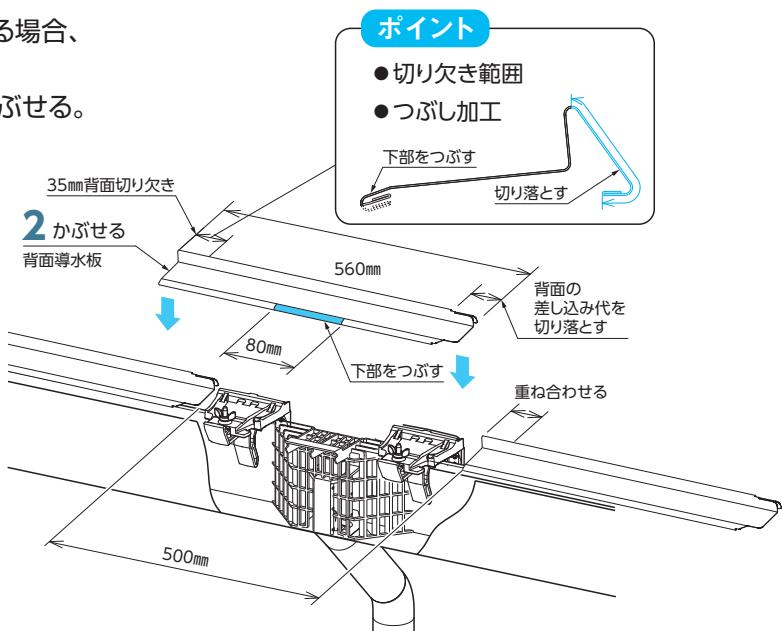
- 背面導水板は必ず吊具2本以上で固定してください。



- 2 落し口の位置に背面導水板の重ね代部がくる場合、
左右の背面導水板の間は、500mmあける。
560mmに切断した背面導水板を加工してかぶせる。

お願い

- 落し口部の上に施工する場合、接着しないでください。(メンテナンス性確保のため)
導水板を上から重ねるので、手前方向に押されて下側カン合部がしっかりと付きません。



ポイント

- 切り欠き範囲
- つぶし加工

3 背面導水板の接続

- 1 重ね代部に接着剤をひも状に

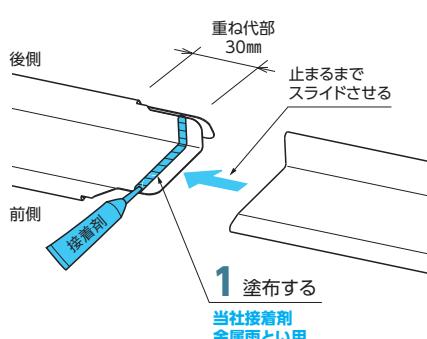
切れ目なく塗布する。

(当社接着剤金属雨とい用)

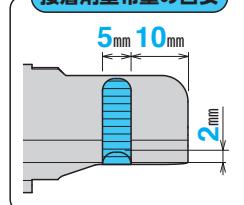
- 2 左側の背面導水板から施工の場合は、
右側の隣合う背面導水板を施工する。
接着剤に乗り上げるようにして、
右側の背面導水板をカン合させる。

カン合時のポイント

- 背面導水板の後ろ側にある
重ね代部を内側へ押さえながら
差し込んでください。

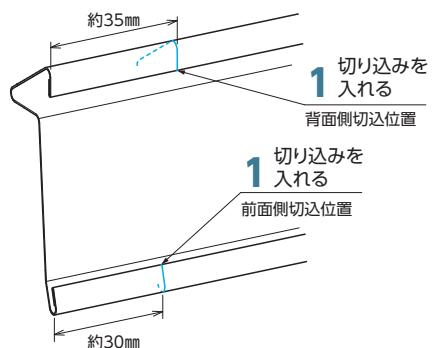
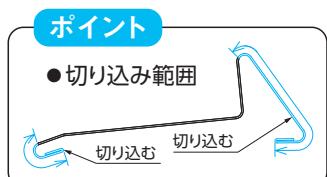


接着剤塗布量の目安

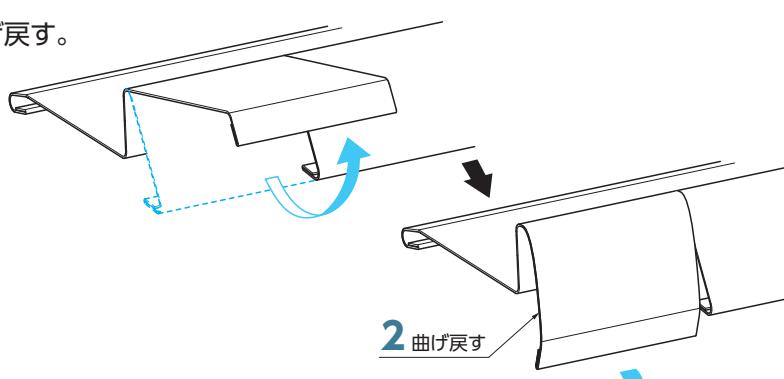
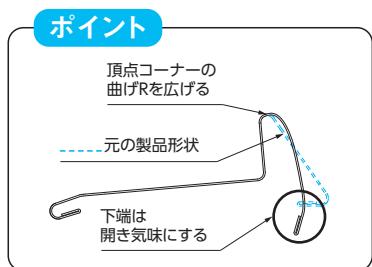


【製品の端材など利用時に既存の重ね代が製品端部にない場合の施工の一例】

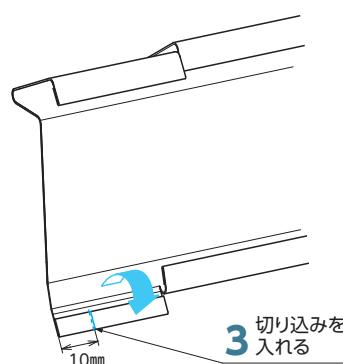
1 背面導水板の前耳、後耳に切り込みを入れる。



2 後耳は、いったん伸ばした後に曲げ戻す。

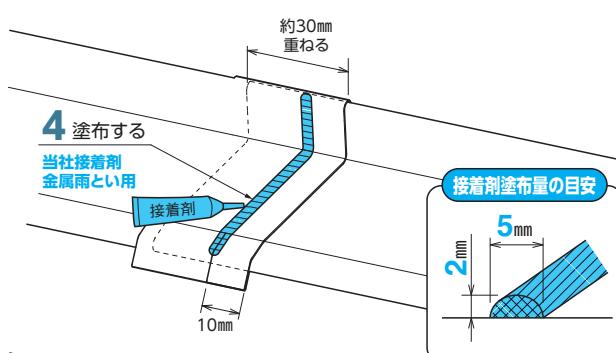


3 前耳側を伸ばして切り込みを入れる。

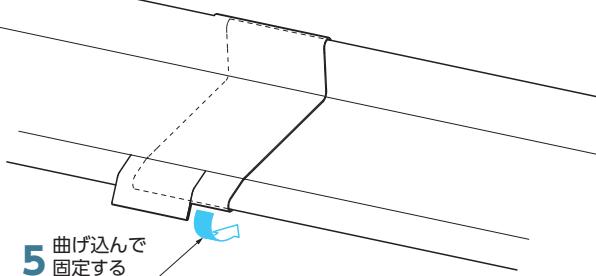


4 端部から15mmの位置に接着剤を塗布後、加工した箇所を図のように重ねる。

(当社接着剤金属雨とい用)



5 切り込みを入れた箇所を曲げ込んで固定する。



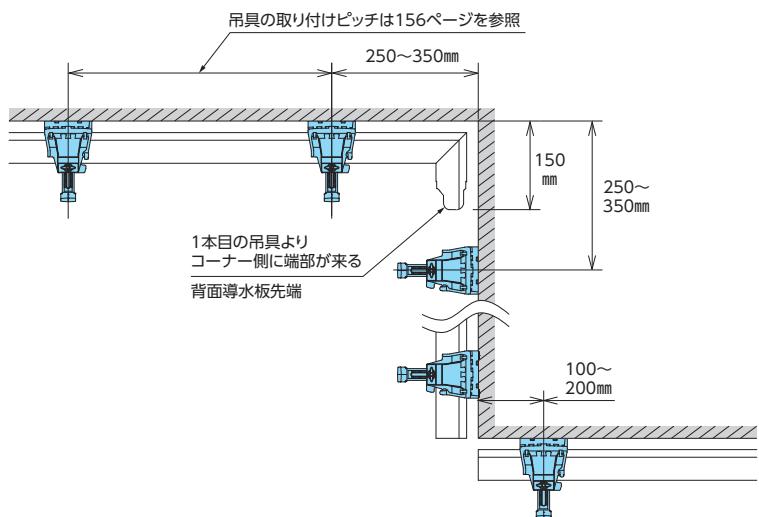
4 コーナー部の施工

ポイント

- 先に背面導水板の右端に、コーナー部の加工を先に行ってから必要な長さに応じて、背面導水板の先端を切斷してください。

お願い

- 背面導水板は必ず2本以上の吊具で固定してください。

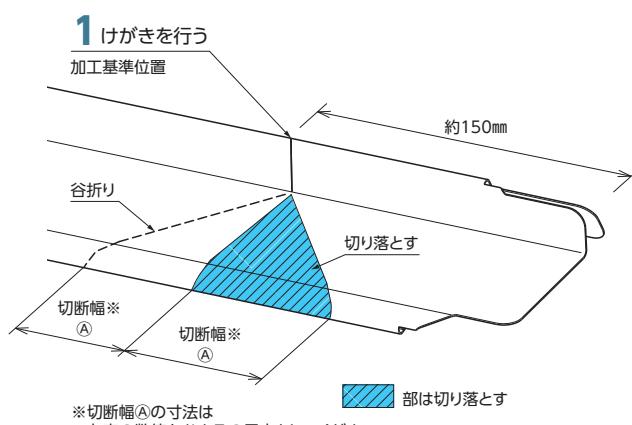
ア軒といの施工方法
ーキ・スペックトイ

⑨背面導水板の施工(スライド式吊具)

- 1 前側の切り欠きは下表を参照に
下図の切斷幅のけがきを行い切り落とす。

■鼻隠し勾配ごとの切斷幅

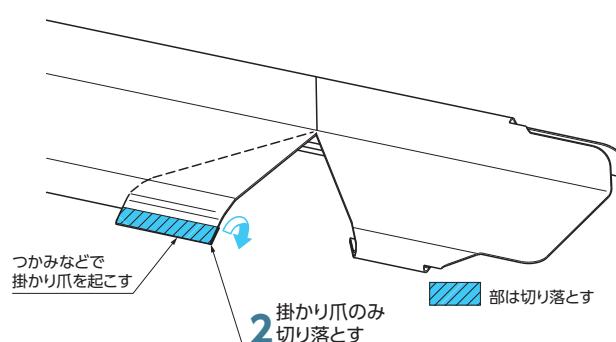
	勾配	切斷幅Ⓐ
勾配鼻隠し	6.0寸	39.1mm
	5.5寸	40.3mm
	5.0寸	41.5mm
	4.5寸	42.7mm
	4.0寸	43.8mm
	3.5寸	44.9mm
	3.0寸	45.9mm
	2.5寸	46.9mm
	2.0寸	47.8mm
	1.5寸	48.6mm
	1.0寸	49.3mm
	0.5寸	49.9mm
垂直鼻隠し	50.3mm	



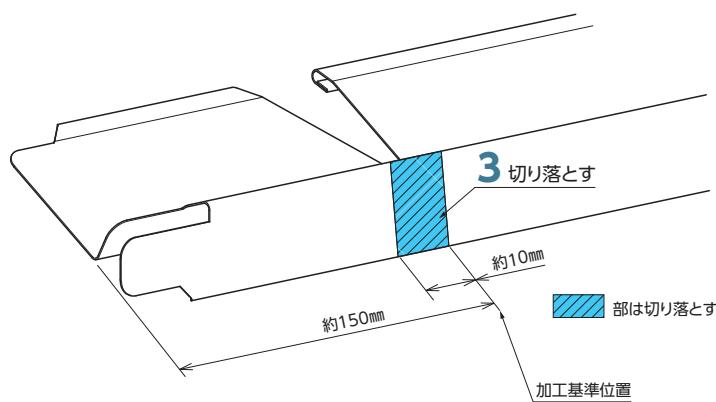
- 2 つかみなどで掛かり爪を起こして
切り落とす。

ポイント

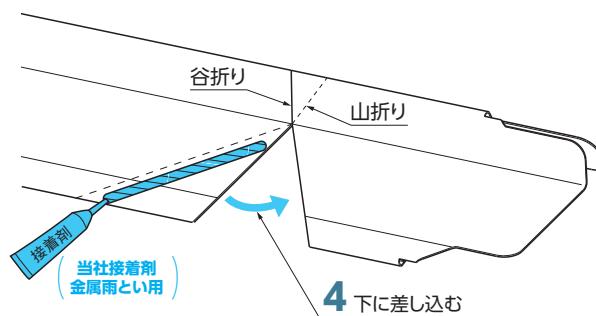
- 切り欠き範囲
つかみなどで
掛かり爪のみ切り落とす



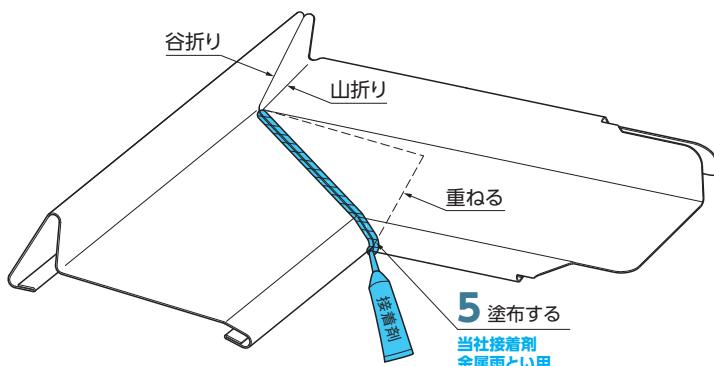
3 背面導水板の後ろ側の切り欠きは基準位置から先端側を約10mmの幅で切り落とす。



4 背面導水板に接着剤を塗布して、塗布した面を切り欠いた側の下に差し込む。



5 合わせ目に接着剤を塗布する。



10 内飾り板の施工

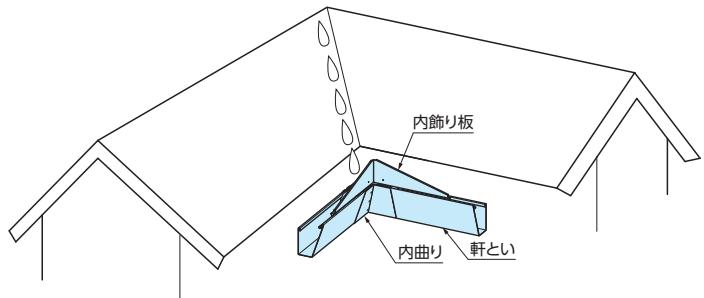


■積雪地(中雪地域、多雪地域)には施工しない
積雪による落下で、けがをするおそれがあります。

- 谷部では一度に大量の雨水が流れ、
雨といを飛び超えてしまう場合があります。

お願い

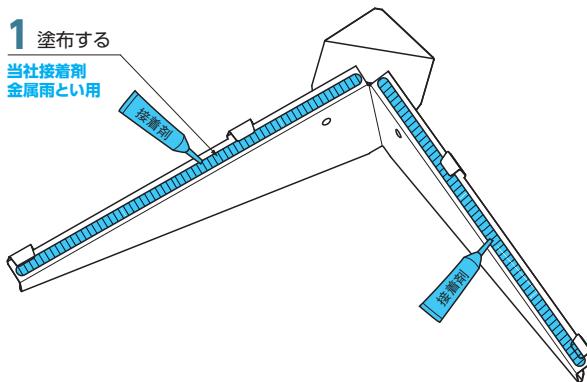
- 谷部で雨水が飛出する可能性がある場合、
内曲り(勾配鼻隠し用)は内飾り板との
併用をおすすめします。



1 内飾り板の取り付け

- 1 内飾り板と軒とい、内曲りが接する右図の位置に接着剤を塗布する。

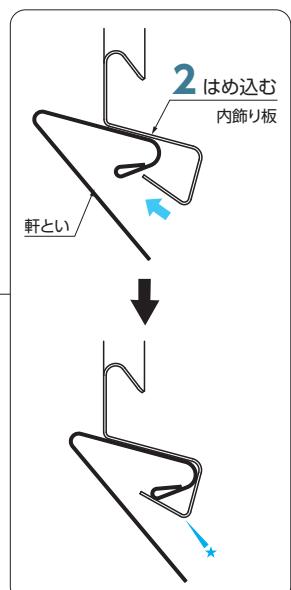
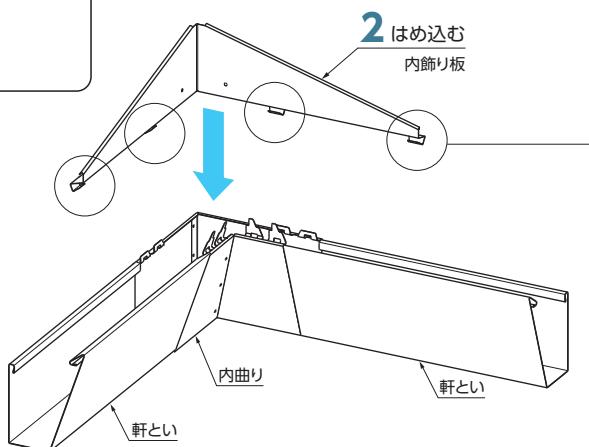
(当社接着剤金属雨とい用)



- 2 スライドさせながら内飾り板の仮保持部分を
軒といの前耳にはめ込む。

お願い

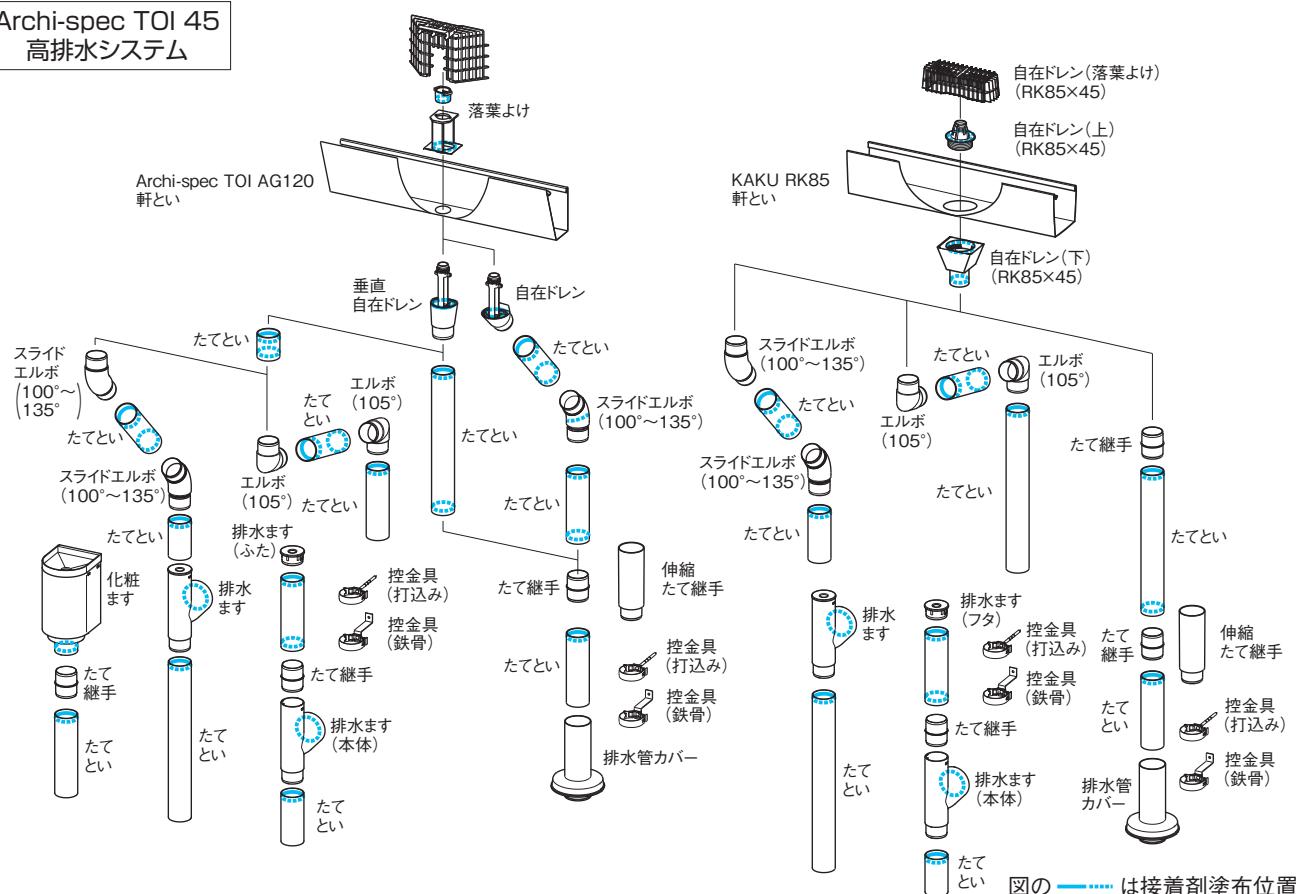
- 接着剤が硬化するまでは、強い衝撃を与えないでください。
(飛散のおそれがあるため)



Archi-spec TOI : たてとい 設計・施工条件 排水システム図・軒とい容量・排水能力

1 部材・施工組立図

Archi-spec TOI 45
高排水システム



アーチ・スペック・トイ
たてとい 設計・施工条件

排水能力に対する設計のポイント

2 軒とい容量・排水能力

(地域別降雨強度160、140、120、100mm/hを採用し、
水勾配1/1000の標準の時、サイホン効果発生時)

軒とい		当社 たてとい サイズ	排水能力	地域別降雨強度での落し口1か所当たりの適応屋根投影面積			
品種	名称・サイズ			◎軒とい、たてとい 組み合わせによる 排水能力 (L/s)	降雨強度 160mm/hの時	降雨強度 140mm/hの時	降雨強度 120mm/hの時
アーチ・スペック・トイ	AG120	45	通常排水	0.9	20m ² 以下	23m ² 以下	27m ² 以下
			高排水 (サイホン)	1.2	26 //	30 //	35 //
	RK85	45	通常排水	1.1	25 //	29 //	34 //
			高排水 (サイホン)	2.4	54 //	61 //	86 //

降雨強度とは

降雨強度 (mm/h) は、1時間当たりの降雨量をいいます。

地域別降雨強度は、気象庁発行の「日本の気候表」の中に掲載されている10分間降雨量から、5~6年に1度位現れる程度の特別な豪雨を除いた降雨量を基準として、1時間当たりに換算したもので



地域別 降雨強度	160mm/h	140mm/h	120mm/h	100mm/h
凡 例				
該当 都道府県名	三重、和歌山 高知、鹿児島 沖縄	茨城、千葉 栃木、群馬 埼玉、長野 静岡、愛媛 福岡、佐賀 長崎、宮崎	青森、岩手、秋田、 宮城、福島、東京、 神奈川、山梨、 富山、石川、福井、 岐阜、愛知、滋賀、 京都、大阪、奈良、 兵庫、鳥取、島根、 岡山、広島、山口、 徳島、香川、大分、 熊本	北海道、山形 新潟

排水能力に対する設計のポイント

1 雨とい排水システム

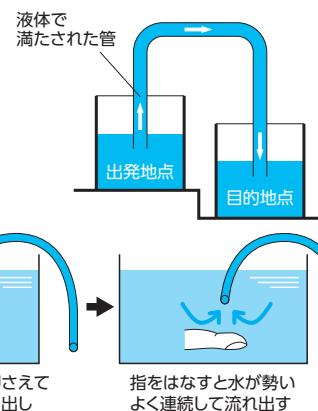
- Archi-spec TOIは、たてといが満水になるとサイホン現象^{*1}が発生し、排水能力がアップする雨といシステムです。

※1 サイホン現象とは

サイホン(siphonギリシア語で「チューブ、管」の意味。サイフォンともいう)液体が流れ出す位置と到達する位置に高低差がある場合、そこに位置エネルギーの差が生まれます。流れ出す位置から到達する位置まで、液体で満たされている管でつながっている場合、その位置エネルギーの差が運動エネルギーとなり、液体が高い位置から低い位置へと流れます。これをサイホン現象といいます。

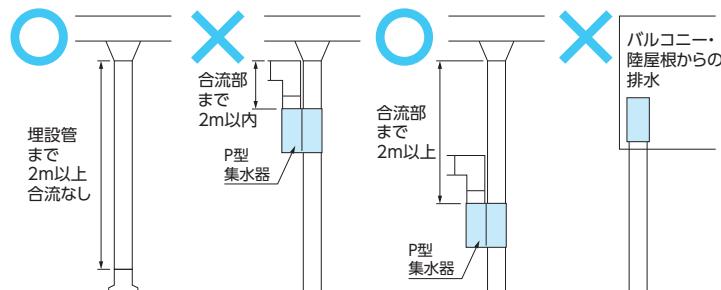
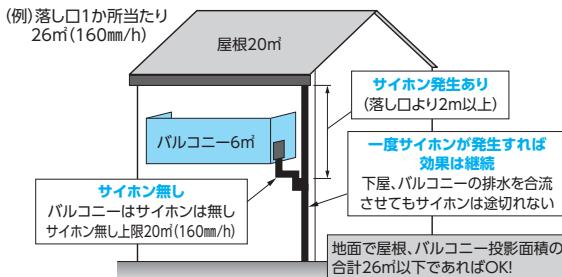
【例：水槽の水替え】

ホースに水をため、水槽の液面より低くなるよう、外にホースを垂らすと勢いよく、水槽の水を吸い上げます。



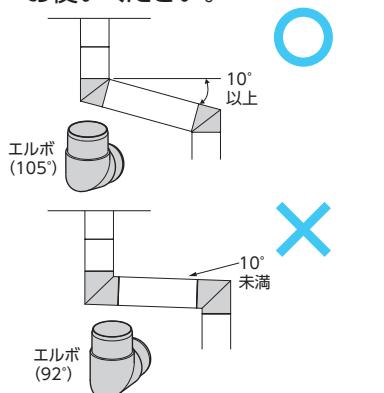
2 サイホン発生のポイント

- P型集水器で軒といから落差2m以内に合流部を設定するとサイホン現象が発生しないことが分かっています。
- バルコニー、陸屋根はサイホンが発生しません。(サイホン効果を発生させるには、落し口に水が一定量たまる条件が必要です。)
- Archi-spec TOIは、はいとい施工はできません。(サイホン効果発生時、雨水の飛散の可能性があります。)



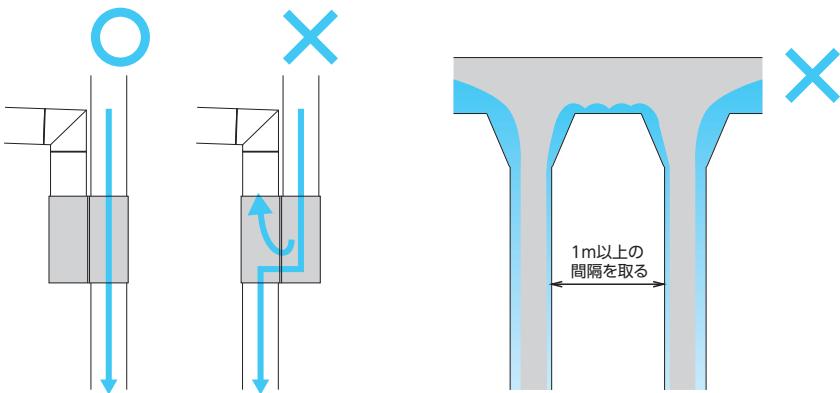
3 その他サイホン発生を阻害する納まり

- 呼びといの角度は10度以上
- ※垂直自在ドレンをお使いになる場合は、必ずエルボ(105°)をお使いください。



- P型集水器は主管をストレートに設置

- 落し口は並べて設置しない (たてといが満水になりにくくなるため)



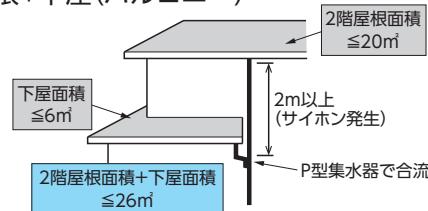
4 サイホン設計参考事例

- AG120×45 ※降雨強度160mm/h サイホン発生あり 最大対応投影面積26m²
サイホン発生なし 最大対応投影面積20m²の場合

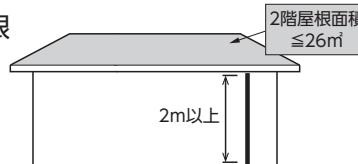
■サイホンがGL(地面まで)継続する設計

- 大屋根はサイホンが発生する条件のため、一度サイホンが発生すればGLまで継続する。
- 大屋根+下屋(バルコニー)の合計26m²までの投影面積であれば1か所で対応可能
- 下屋はサイホンが発生しない納まりなので最大20m²まで
- 平屋1階層の場合、軒高が2m以上で合流部がない場合あればサイホンは発生し落し口1か所当たり26m²まで排水可能

例) 大屋根+下屋(バルコニー)



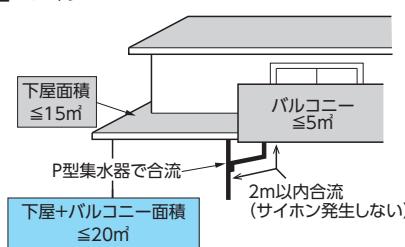
例) 平屋大屋根



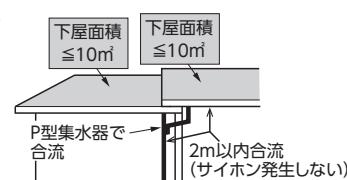
■サイホンが発生しない設計

- 下屋とバルコニーを合流する場合、2m以内に合流部ができるため、サイホンは発生しません。
- 左図はサイホンが発生しない納まりですが、サイホンが発生しなくとも排水可能な面積までなら(160mm/hの場合最大20m²)サイホンなしでも排水可能です。
- 棟違いなどでも上記と同じく2m以内に合流部があればサイホンが発生しません。ただし、サイホンが発生しなくとも排水可能な投影面積までなら(160mm/hの場合最大20m²)排水可能です。

例) 下屋+バルコニー

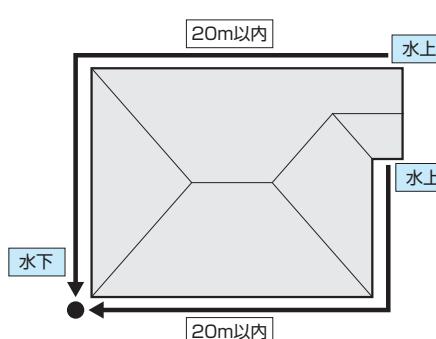
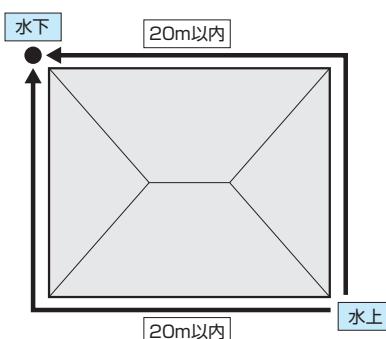


例) 棟違い、他



5 たてとい最大離隔距離

- 落し口1か所当たりで負担するたてとい最大軒とい長さは20m以内で設置してください。
- ただし、1か所当たりの屋根負担面積=26m²以下。(AG120×45 ※降雨強度160mm/h)



片側20m以内は伸縮対策不要です。

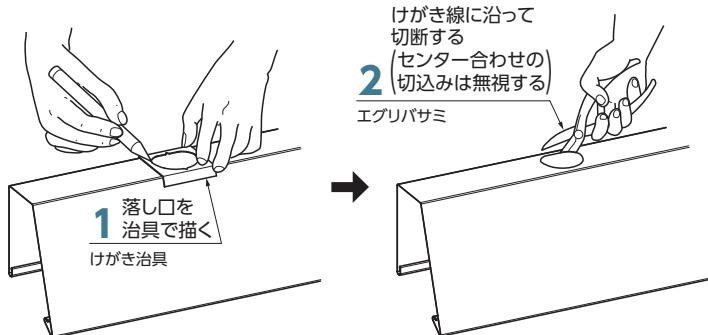
①落し口の施工(軒とい Arci-spec TOI AG120の場合)



■自在ドレン穴をけがく場合は必ずけがき治具を使用する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1 落し口の取り付け(自在ドレン・垂直自在ドレン共通)

1 けがき治具を必ず使用し、けがき針や鉛筆で落し口を描く。



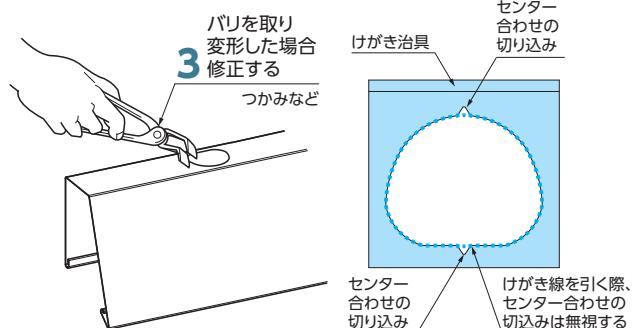
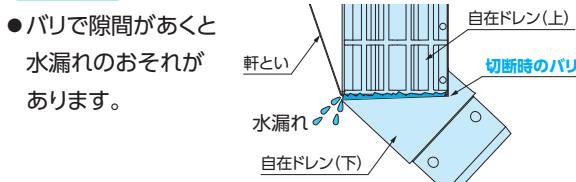
2 けがき線に沿ってエグリバサミで落し口をあける。

お願い

●自在ドレン穴をけがく場合は必ずけがき治具を使用してください。
水漏れの原因になります。

3 加工部分のバリを取り、隙間が出ないようにつかみなどで変形した場合修正する。
(水漏れ防止のため)

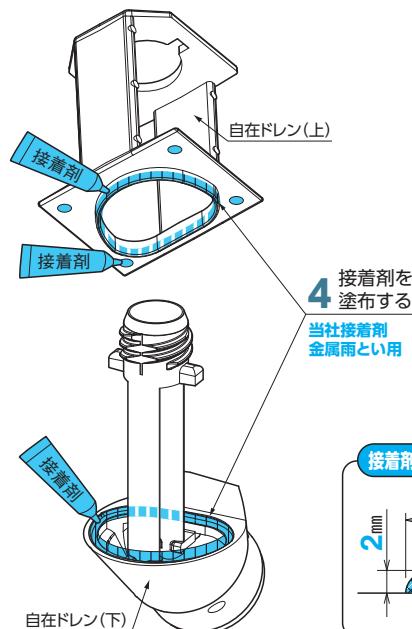
お願い



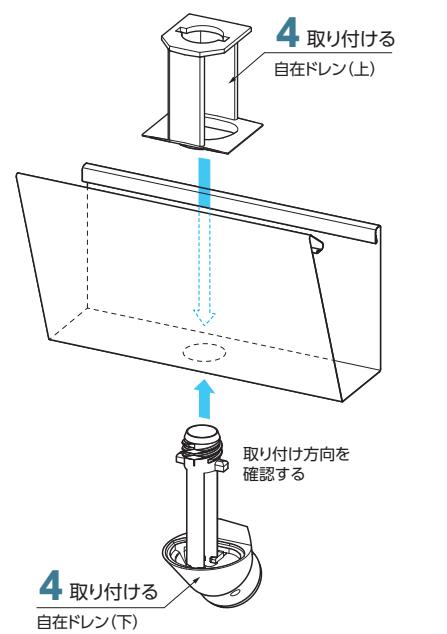
4 自在ドレン(上)のツバの裏側と自在ドレン(下)の接続面に接着剤を周囲ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)

お願い

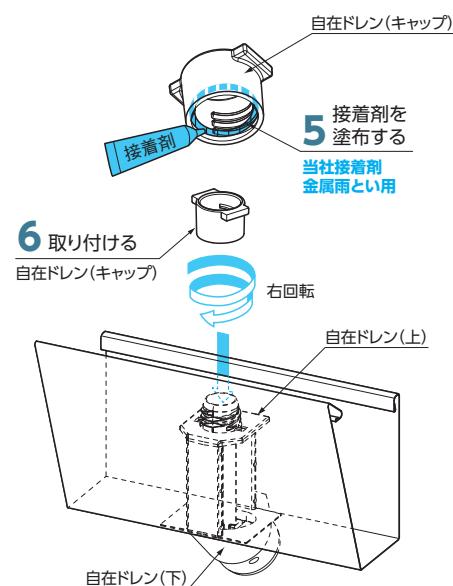
- 当社品以外の接着剤を使用すると、変形・割れが発生するおそれがありますので、必ず当社接着剤金属雨とい用をお使いください。
- 接着剤を増し塗りしたり、当社タニシールなどシーリング剤を使用したりしますと、変形や割れが発生しやすくなりますのでおやめください。
- 接着剤が軒とい・自在ドレンの外側に、はみ出したり、または付着した場合、放置しておくとその部分が変色しますので、布でしばらくふき取ってください。



- 5 自在ドレン(上)と自在ドレン(下)を、軒といの穴をあけた部分に取り付ける。



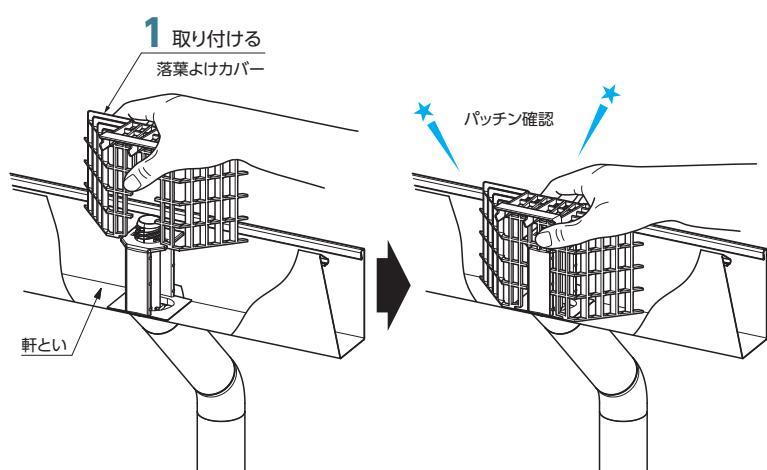
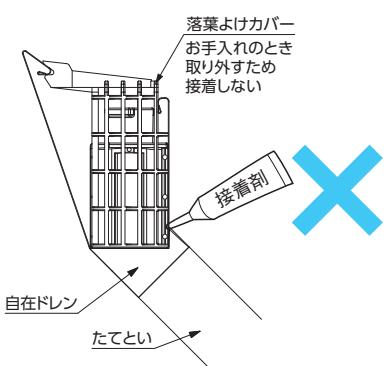
- 6 自在ドレン(キャップ)の内側に接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)



- 7 自在ドレン(キャップ)を自在ドレン(上)に取り付ける。

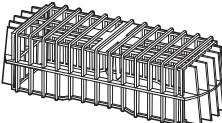
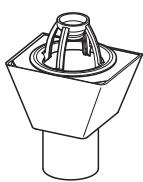
2 落葉よけカバーの取り付け

- 1 落葉よけカバーを取り付ける。
(接着剤は不要です。)

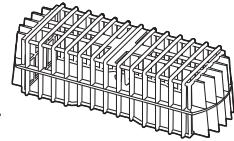
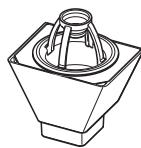


①落し口の施工(軒とい KAKU RK85の場合)

AST45 (Archi-spec TOI たてとい 45)



瞬水 S15



1 落し口の取り付け(自在ドレン AST45、瞬水 S15)

- 1 自在ドレンを取り付ける位置に
エグリバサミまたはホルソーで穴を
あける。
穴径はφ55にする。

【エグリバサミの場合】



【ホルソーの場合】



- 2 加工部分のバリをきれいに取り、隙間が出ないようにする。
(水漏れ防止のため)

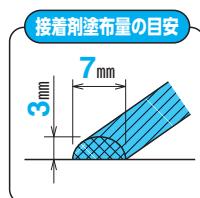
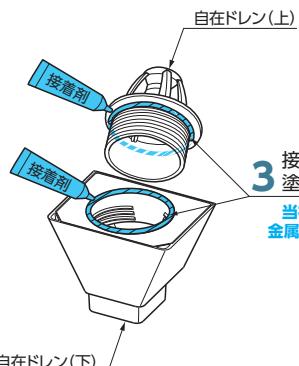
お願い



- 3 自在ドレン(上)のツバの裏側と自在ドレン(下)の接続面に接着剤を周囲ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)

お願い

- 当社品以外の接着剤を使用すると、変形・割れが発生するお
それがありますので、必ず当社接着剤をお使いください。
- 当社品でも、塗布量が多すぎると変形・割れが発生することが
あります。
- 特に高耐候性仕様の商品の場合、接着剤を増し塗りしたり、
当社タニシールなどコーティング剤を使用したりすると、
変形や割れが発生しやすくなりますのでおやめください。



- 4 自在ドレン(上)と自在ドレン(下)を、軒といの穴をあけた
部分に取り付ける。

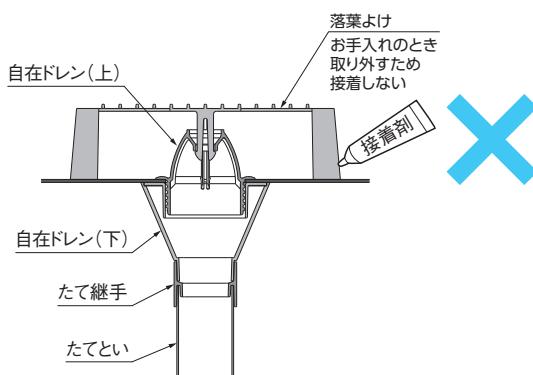


2 落葉よけの取り付け

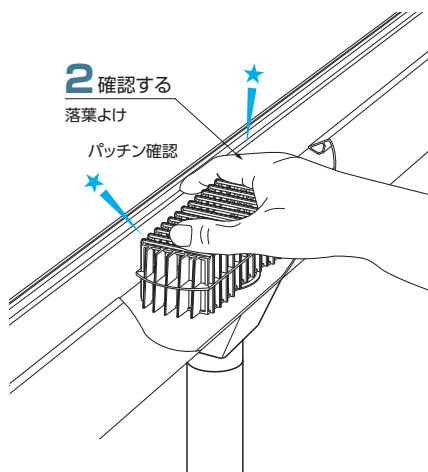
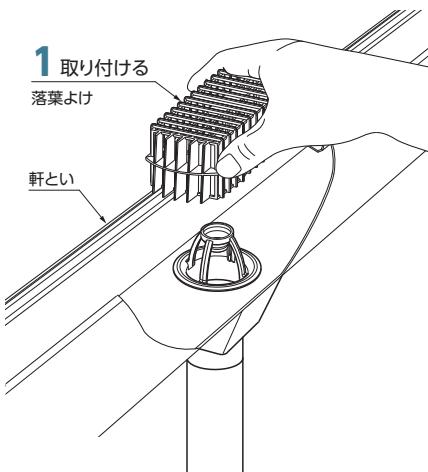
- 1 落葉よけを取り付ける。
(接着剤は不要です。)

お願い

- 自在ドレン(RK85×45)はたてとい短管付(エルボカン合)です。たてといに直結する場合はたて繼手をご使用ください。
- 接着剤を使用しないでください。落葉よけの清掃ができなくなります。



- 2 落葉よけが自在ドレンに確実にはまっているか確認する。



②控金具の施工

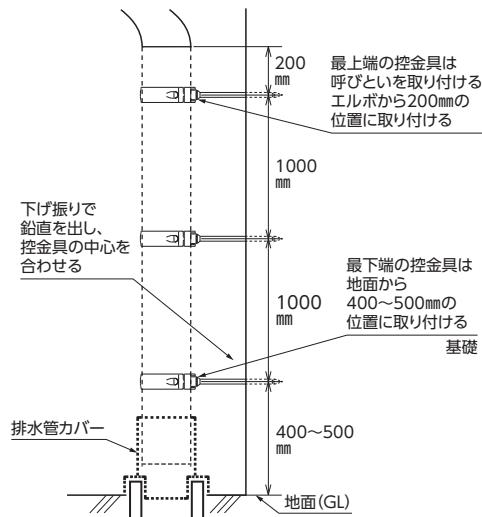
1 たてとい基準

- たてとい控金具は金具間隔を1000mm以内で取り付けます。
- たてとい伸縮部材(排水管カバー)
 - ー・伸縮たて継手)を必ず使用し伸縮を吸収できるようにします。

■ご使用の目安

建物高さ H(m)	6m(2階建て)	9m(3階建て) [※]	12m(4階建て) [※]
組み合わせ	伸縮たて継手 または 排水管カバー	伸縮たて継手 + 排水管カバー	伸縮たて継手 + 伸縮たて継手 + 排水管カバー

※3階建て以上では、伸縮たて継手と排水管カバーの両方をご使用ください。
排水管カバーが使用できない場合は、伸縮たて継手を2か所ご使用ください。



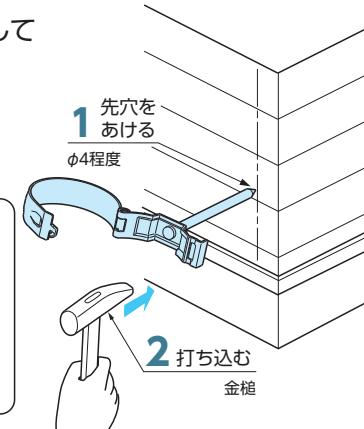
2 控金具の取り付け

【打込み金具の場合(木造下地)】

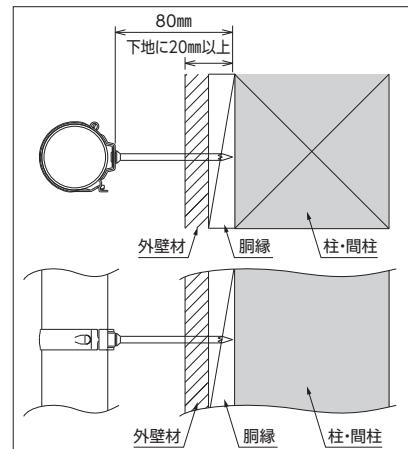
- 1 表面がサイディングの場合、割れ防止として先穴をあける(Φ4程度)
- 2 打込み用を直接金槌で打ち込む。

お願い

- 控金具(打込み)ご使用の場合、釘周辺部にシーリングをして、雨水浸入防止のための処理をしてください。
シーリングは概築の壁材の種類に応じたものをご使用ください。

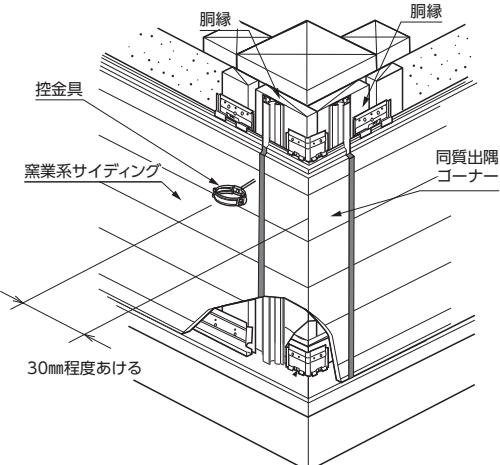


■納まり参考図



控金具のサイディングへの施工上の注意点

- 固定場所は、サイディングの裏に胴縁などの構造部材のある場所に、その構造部材にまで達するように打ち込んでください。
(サイディング部分のみで固定すると保持力が無いため、サイディングの割れや控金具の抜けが発生する場合があります。)
- サイディングの各端面より30mm程度あけて固定してください。
(サイディングが破損する可能性があります。)
下地が無い場合は落し口の位置を変更することで対処してください。
※品種や下地、相じゃくりの有無で端面からの距離が変わります。
詳細はケイミュー株式会社にご相談ください。
- シーリング部へは施工しないでください。



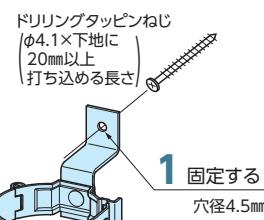
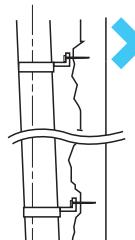
【鉄骨用金具の場合(鉄骨下地)】

1 ドリリングタッピンねじで固定する。

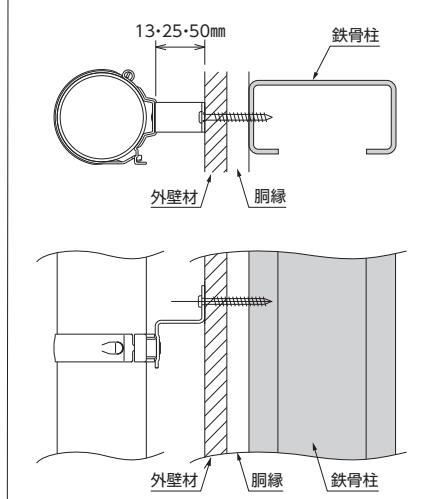
ポイント

● 窯業系サイディングの場合直打ちすると割れるおそれがありますので先穴をあけてください。

● 窯業系サイディングで表面に凸凹がある場合は、打込み用をご使用ください。鉄骨用を使用すると金具の出寸法が不揃いになり溝部にはまらない場合があります。

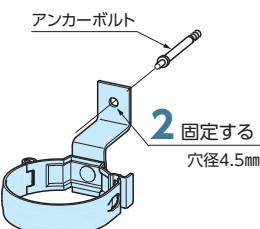
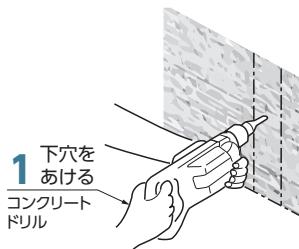


■納まり参考図

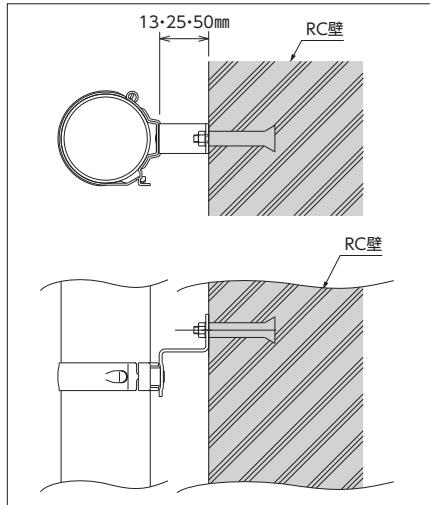


【鉄骨用金具の場合(RC造)】

1 コンクリートドリルで下穴をあけて、アンカーボルトの施工を行う。



■納まり参考図



お願い

● アンカーボルトは製造元に確認いただき、十分な抜け強度がある物を選定ください。

3 控金具へのたてといの取り付け

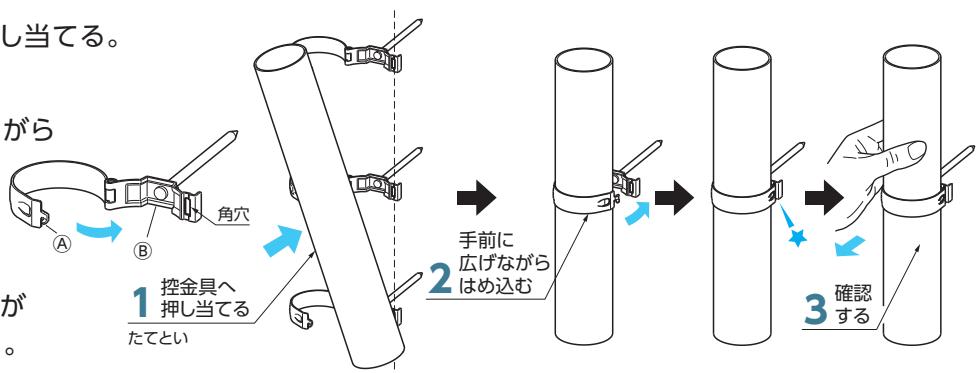
1 たてといを控金具②へ押し当てる。

2 控金具①を手前に広げながら

①の先端を②の角穴に
はめ込む。

3 たてとい取り付け後、

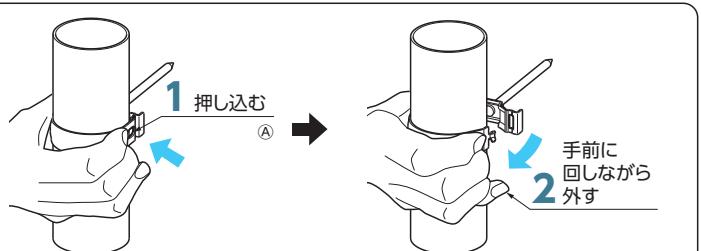
手で控金具からたてといが
外れないかの確認をする。



【たてといの取り外し方】

1 ①を押し込む。

2 先端が外れたら手前に回しながら外す。



③たてといの施工

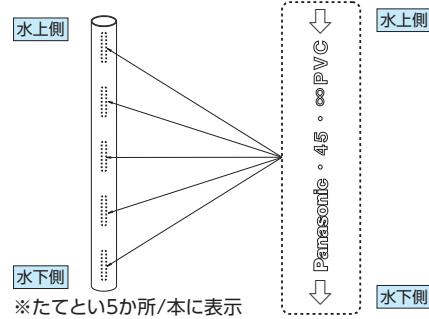


必ず守る

■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

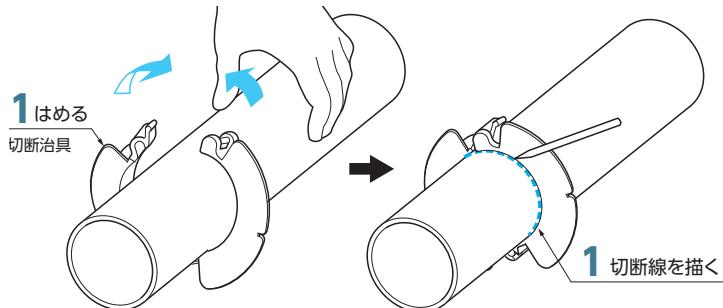
たてとい施工上のポイント

- 「Archi-spec TOI」たてとい45は、表面加飾による色目を統一させるために、「水上」・「水下」の方向が決められています。
- たてとい本体に右記のような水上・水下を示す「↓」を刻印していますので、施工の際に必ずご確認の上、**「↓」の方向に合わせて施工してください。**
- 施工の際には、**刻印部分を建物の壁面側に向けてください。**
(刻印を表側にすると外観上目立つ場合がございます。)
- たてといの切断は切断治具を使ってまっすぐ切断してください。



1 たてといの切断

- 1 専用の切断治具をはめ、切断線を描く。



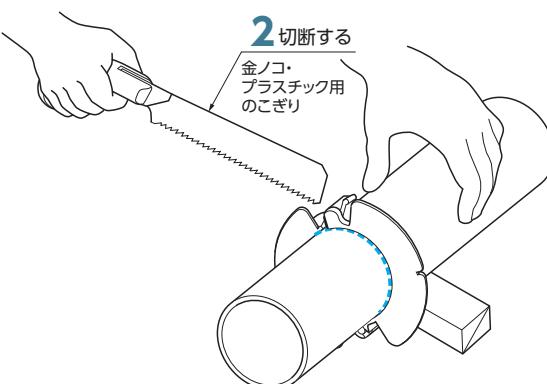
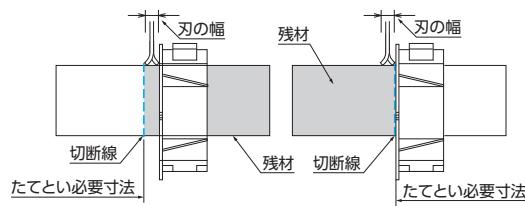
- 2 切断線に切断治具を合わせ、切断線に沿って金ノコで
下図のように刃の幅を考慮して切断する。
たてとい切断の際は、寸法取りを厳密に行う。

お願い

- たてといの切断には丸のこや充電パワーカッターを使用しないでください。割れや欠けの原因となります。

ポイント

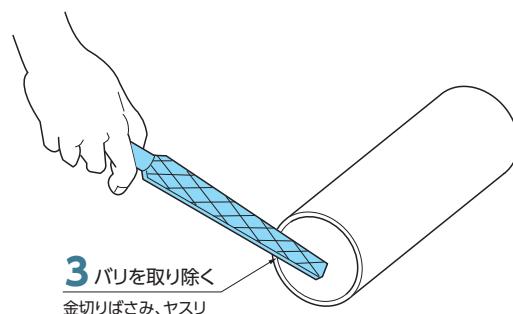
- 刃の幅を考慮して、軒といを切断してください。



- 3 たてといの切断面に付いたバリを金切りばさみ、ヤスリなどで取り除く。

お願い

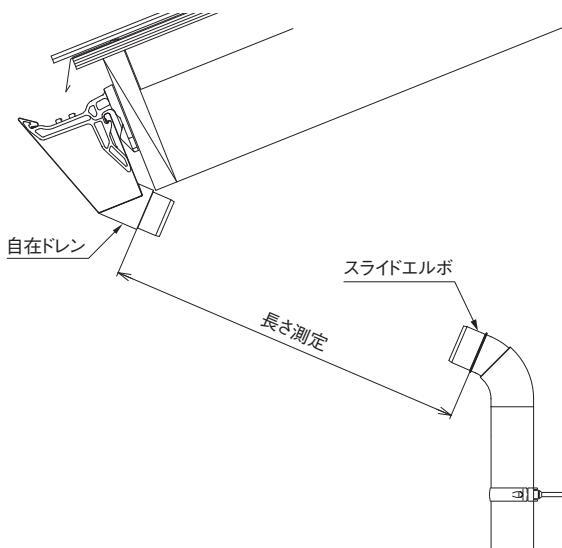
- 切断面のバリは必ず取り除いてください。部材の取り付け時にバリによって隙間があく場合があります。(水漏れ防止のため)



2 呼びといの接続

- 1 呼びといの長さを測り、たてといの切断位置を確認する。

- 2 呼びとい、たてといを切断しエルボを取り付ける。

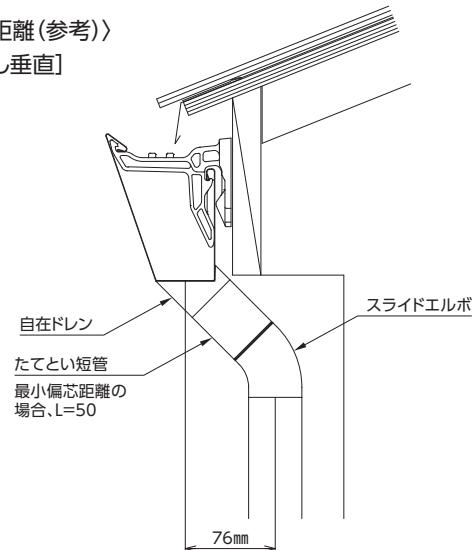


【軒先の出の少ない住宅への施工】

(自在ドレンの場合)

〈最小偏芯距離(参考)〉

[鼻隠し垂直]



■屋根勾配の最小偏芯距離(参考)

屋根勾配：2.5寸	屋根勾配：3寸	屋根勾配：3.5寸
屋根勾配：4寸	屋根勾配：5寸	屋根勾配：6寸

- 図はスレート屋根で説明、金属屋根でも寸法は同じになります。
- 図は省略していますが、4寸以上の屋根勾配には導水板が必要になります。

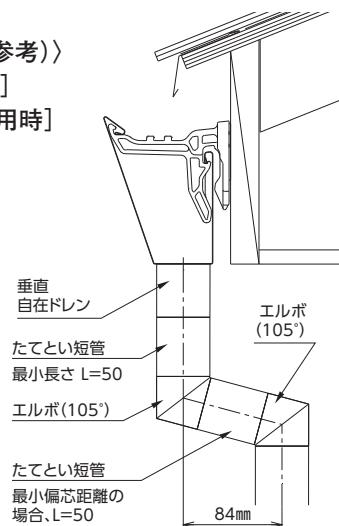
【軒先の出の少ない住宅への施工】

(垂直自在ドレンの場合)

〈最小偏芯距離(参考)〉

[鼻隠し垂直]

[エルボ(105°)使用時]



・垂直自在ドレンでエルボ(92°)の使用は不可(排水量の確保ができないため)

■各屋根勾配の最小偏芯距離(参考) [スライドエルボ使用時]

屋根勾配：2.5寸	屋根勾配：3寸	屋根勾配：3.5寸
屋根勾配：4寸	屋根勾配：5寸	屋根勾配：6寸

・鼻隠し形状が勾配で180mm以上のときは自在ドレン(垂直落し)を使用する。

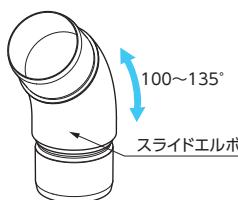
・垂直自在ドレン下のスライドエルボは最小角度(100°)で使用し、軸体側のスライドエルボで角度を調整する。

・図はスレート屋根で説明、金属屋根でも寸法は同じになります。

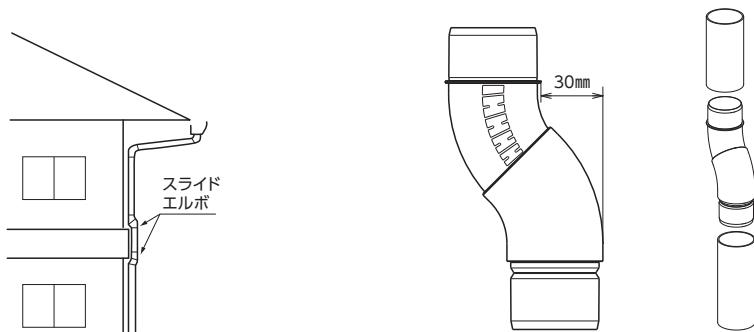
・図は省略していますが、4寸以上の屋根勾配には導水板が必要になります。

3> スライドエルボの取り付け

- 上口、下口が回転し、本体部分は100~135°の間でスライドします。

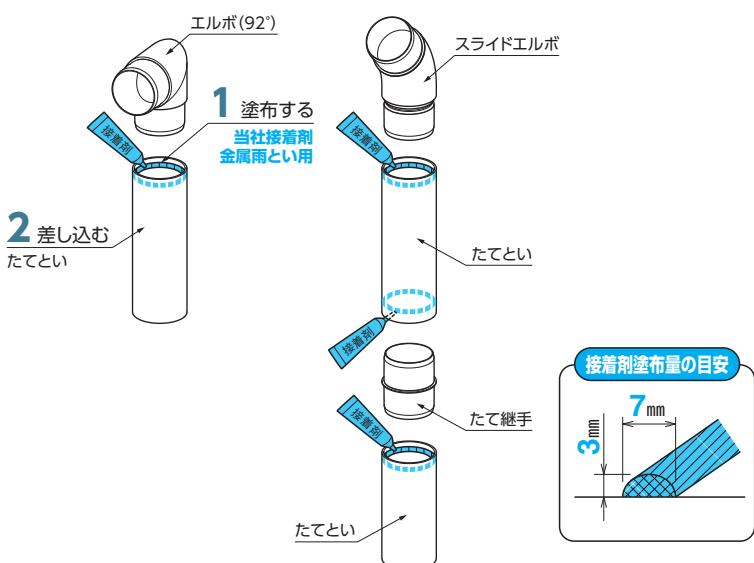


- 幕板よけにも使用できます。



4> エルボ・たて継手・スライドエルボの接続

1 たてといの内面に接着剤を
全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)



2 エルボ・たて継手・スライドエルボを
差し込む。

お願い

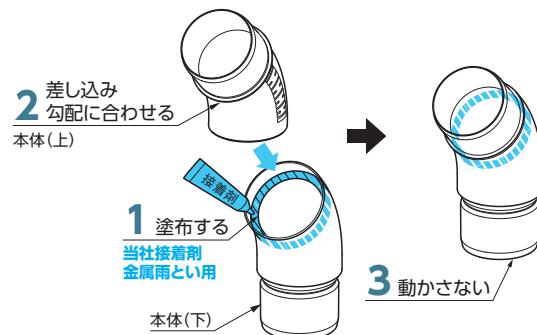
- 当社品以外の接着剤を使用しますと、変形・割れが発生するおそれがありますので、必ず当社接着剤金属雨とい用をお使いください。
- 接着剤を増し塗りしたり、当社タニシールなどシーリング剤を使用したりしますと、変形や割れが発生しやすくなりますのでおやめください。
- たてといの接着位置は必ずたてとい飲み込み側に塗布してください。

【スライド部の接着】

1 本体(下)の内側に接着剤を全周ひも状に切

れ目なく塗布する。

(当社接着剤金属雨とい用)



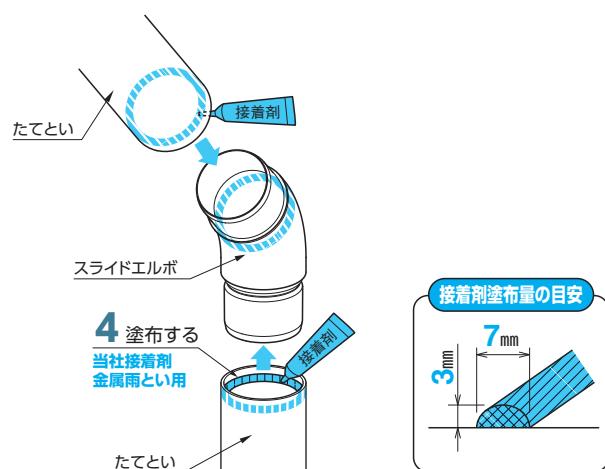
2 本体(上)を差し込み勾配に合わせる。

3 本体(上)を差し込み後、約20分動かさない。

4 たてといの内面に接着剤を全周ひも状に切

れ目なく塗布する。

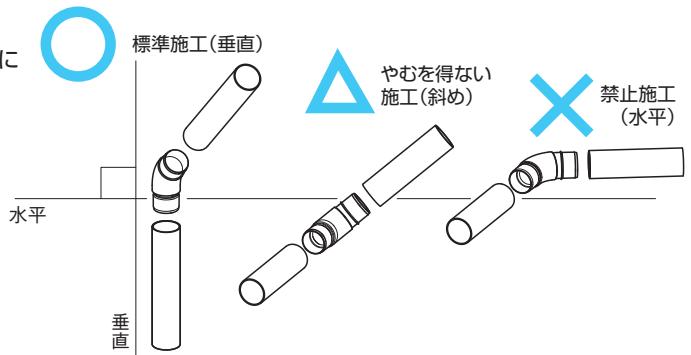
(当社接着剤金属雨とい用)



使用箇所基準

●水平方向での施工は避けてください。

やむを得ず斜め施工する場合は、施工手順の接着剤塗布に関する厳守事項を確実に実施して、取り付けてください。



④落し口部材(ます)の施工(バルコニー・陸屋根など)

!
注意



必ず守る



禁止

■大屋根からのたてといをベランダ・バルコニー内に落す場合は、屋根面積とバルコニー面積を合算したうえでの排水能力の確認を行う

排水能力が不足するとオーバーフローの原因となり、建物を傷めるおそれがあります。

■エルボが確実にカン合しているか必ず確認する

■接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する

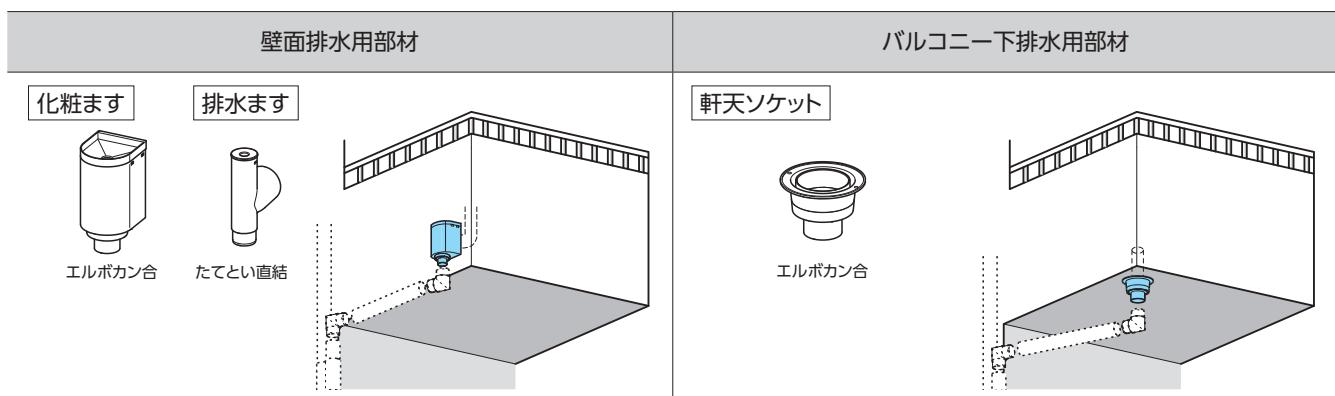
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

■一度に大量の水を排出しない

バルコニーの排水では、洗濯機からの排水など、一度に大量の水が排出された場合、

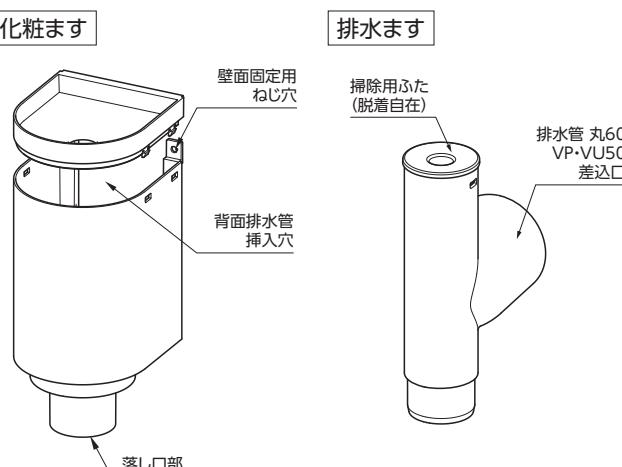
オーバーフローの原因となり建物を傷めるおそれがあります。

1 落し口部材の種類



2 壁面排水用部材の施工

- 壁面、バルコニーからの横排水は化粧ますもしくは、排水ます(たてとい直結)を使用して施工します。



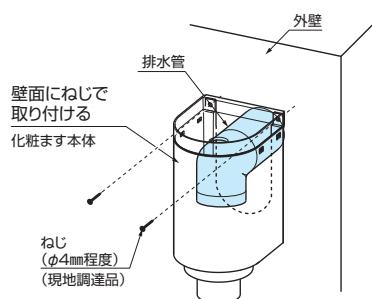
3 バルコニー排水(横)化粧ますの施工

【化粧ます本体を壁面に固定させる場合】

- 化粧ますのふたを取り、壁面から出る排水管の位置に合わせてねじで固定する。
ふたを取り付ける。

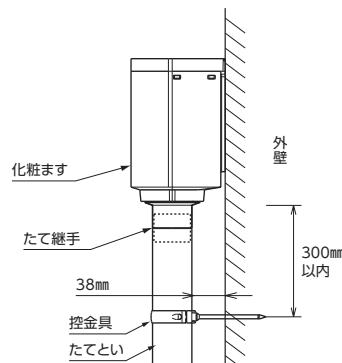
お願い

- ねじをあまり強く留めすぎないでください。
化粧ます本体の上部開口部が変形してふたが入りにくくなります。



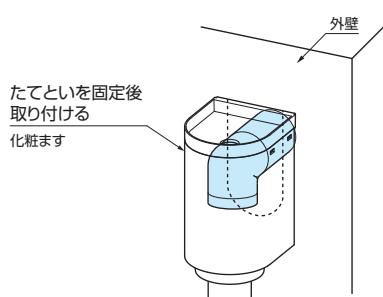
【化粧ます本体の壁面からの距離】

- 化粧ます本体を壁に固定する場合のたてといと壁面の間隔は38mmです。



【化粧ます本体を壁面に固定させない場合】

- 化粧ます本体を壁に固定しない場合は、たて継手から10mm程度隙間をあけ、控金具を取り付けてください。



■一度に大量の水を排出しない

バルコニーの排水では、洗濯機からの排水など、一度に大量の水が排出された場合、オーバーフローの原因となり建物を傷めるおそれがあります。

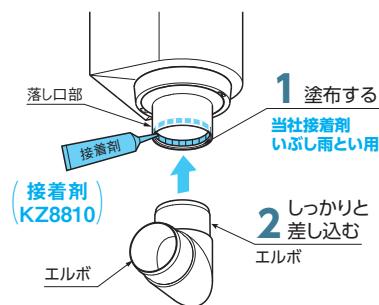
3 落し口へのエルボ・たて継手の取り付け、取り外し

1 化粧ますの落し口部内面に接着剤を塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)

2 エルボをしっかりと差し込む。

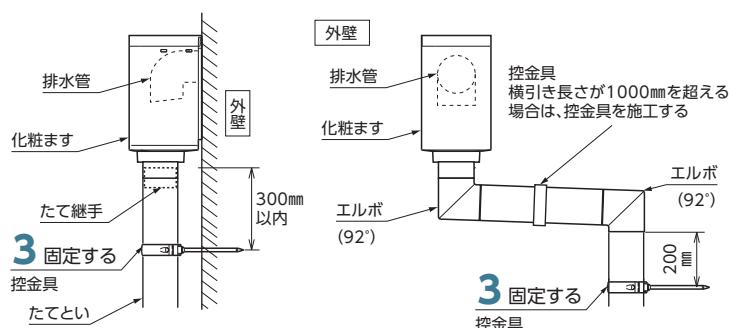
お願い

- 接着後は取り外しができません。施工時はあらかじめ、エルボの角度を決めずないように差し込んでください。
- 化粧ます内を掃除する時は、上部のふたを取り外し上から落ち葉などを取り除いてください。
- あらかじめ化粧ますに落ち葉が入らないように、バルコニーのストレーナに網などを設置してください。



3 接続するたてといの上部を控金具で固定する。

【壁面から垂直に落とす場合】 【エルボを使って振り施工する場合】



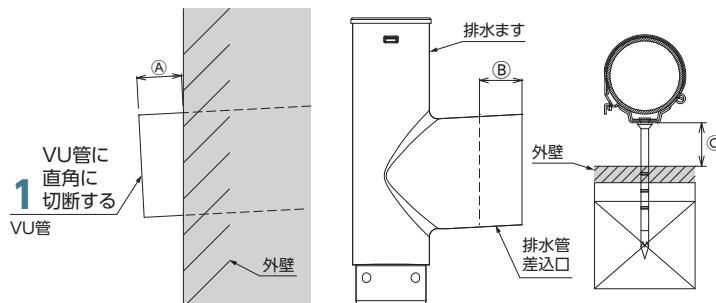
4 バルコニー排水(横)排水ますの取り付け

1 控金具の仕様(長さ)に合わせて排水ますの排水管差込口とVU管を切断する。

■寸法参考表

控金具	VU管 Ⓐ	排水管差込口 Ⓑ
鉄骨用	L=13mm	15mm
	L=25mm	27mm
	L=50mm	52mm
打込用	打ち込み後寸法Ⓒ	Ⓒ+4mm
		50mm-Ⓒ

※数値はあくまで参考値であり、実際の壁面の状況に応じて調整してください。

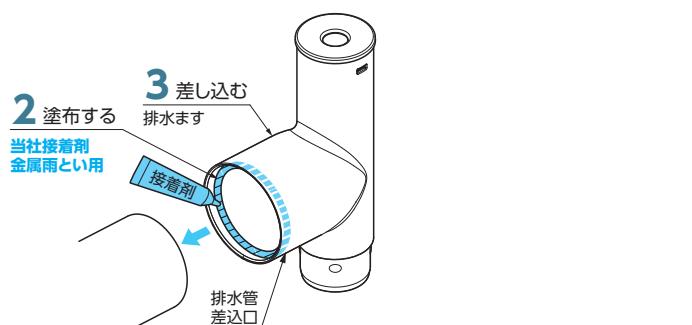


ポイント

- VU管端面はVU管に直角に切断する。
- 排水管差込口は端面に平行(地面に垂直)に切断する。

2 排水管差込口の内面に接着剤を全周ひも状に塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)

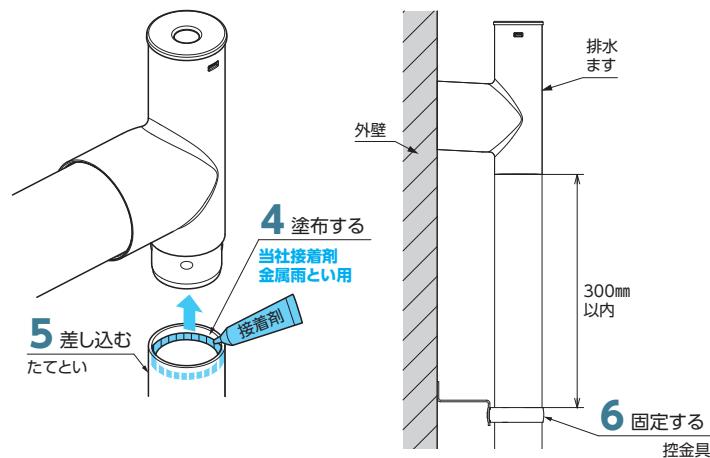
3 排水ますをVU管に差し込む。



4 たてといの内面に接着剤を全周ひも状に塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)

5 たてといを排水ますにしっかりと差し込む。

6 接続するたてといの上部をしっかりと固定する。

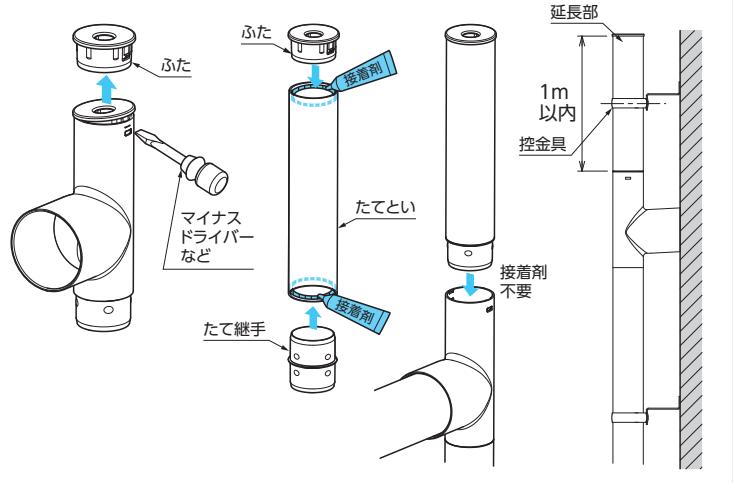


【排水ます上部にたてといを延長する場合】

- マイナスドライバーなどでふたを外し、図のようにたて継手を使用して連結する。

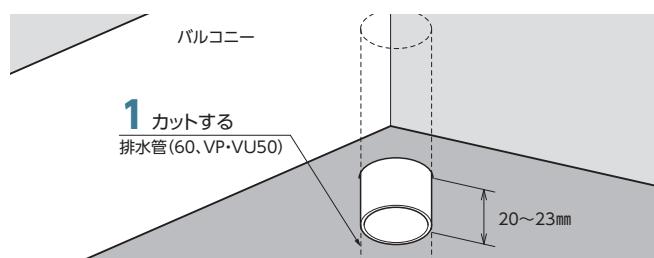
お願い

- 接排水ます上部は、接着しないでください。
(メンテナンス性確保のため)
- 延長するたてといは、中央部を控金具で固定してください。
(強風による延長部の飛散防止のため)
- 排水ます上部から雨水の合流はできません。



5 バルコニー排水(下)軒天ソケットの取り付け

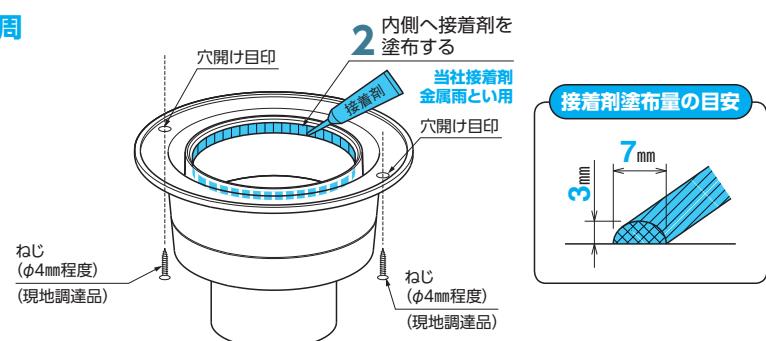
1 軒天から突き出ている排水管(60、VP・VU50)を20~23mmにカットする。



2 軒天ソケットの排水管挿入部に接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)

お願い

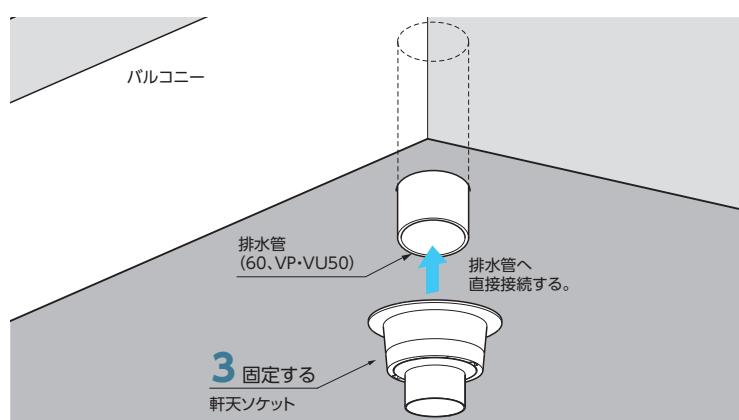
- 軒天ソケットは、ますのように水をいったんためることができません。排水管を規定の長さに切断し、接着しなければ雨水漏れにより、建物を傷めるおそれがあります。



3 軒天ソケットを軒天にあたるまで差し込んで固定する。

ポイント

- 軒天にねじ固定する場合のねじ固定用穴開け目印を設置しています。(ねじ固定しない場合でも、下から穴は見えません。)
- ねじ固定が必要な場合は、ねじ固定用穴開け目印にドリルなどで先穴後、軒天に固定してください。



6 落し口へのエルボ・たて継手の取り付け

1 軒天ソケットの落し口部内面に接着剤を塗布する。
(当社接着剤金属雨とい用)

2 エルボをしっかりと差し込む。

お願い

- 接着後は取り外しができません。施工時はあらかじめ、エルボの角度を決めずないように差し込んでください。
- 軒天ソケット内を掃除する時は、上部のふたを取り外し上から落ち葉などを取り除いてください。
- あらかじめ軒天ソケットに落ち葉が入らないよう、バルコニーのストレーナに網などを設置してください。



⑤たてとい伸縮部材の施工

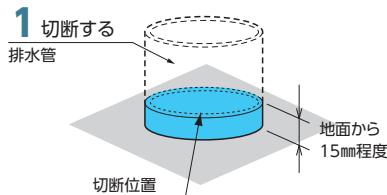


- たてといの伸縮を逃がすため、必ず排水管カバーを取り付ける
伸縮でたてとい、たてとい部材が破損し水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。
- 接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する
水漏れにより、建物を傷めるおそれがあります。

1 排水管への接続(排水管カバーの取り付け)

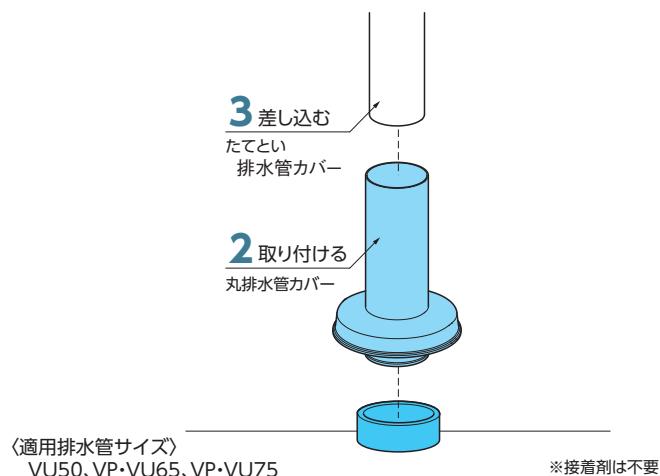
1 排水管は地面から15mm程度上で切断する。

排水管



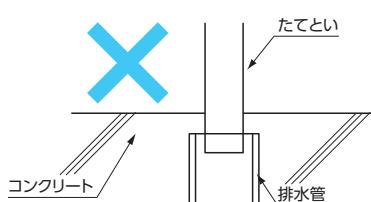
2 排水管に排水管カバーを取り付ける。

3 排水管カバーにたてといを差し込む。



お願い

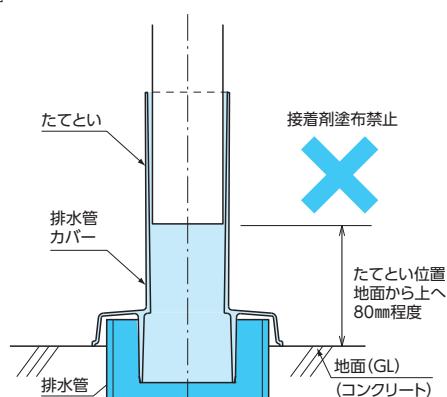
- たてといと排水管を接着したり、コンクリートに埋め込み固定することはおやめください。



- たてといと地面との隙間は80mm程度あけてください。たてといの伸縮により排水管カバーが破損するおそれがあります。

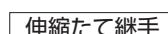
ポイント

- 排水管カバーは伸縮を逃がす部材です。
接着剤で固定すると伸縮を取ることができず破損につながります。



2 伸縮たて継手の取り付け

- 伸縮たて継手をたてとい(3000mm)3本に1か所程度使用し、たてといの伸縮を吸収します。



■ご使用の目安

建物高さ H(m)	6m (2階建て)	9m (3階建て) *	12m (4階建て) *
組み合わせ	伸縮たて継手または 排水管カバー	伸縮たて継手 + 排水管カバー	伸縮たて継手 + 伸縮たて継手 + 排水管カバー

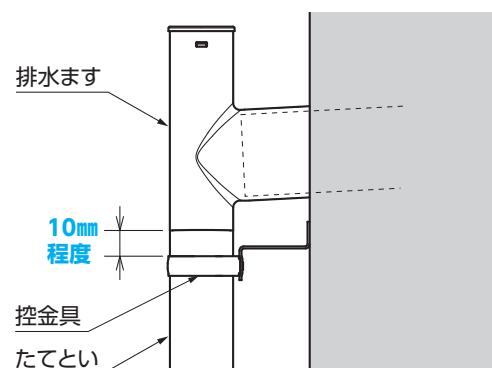
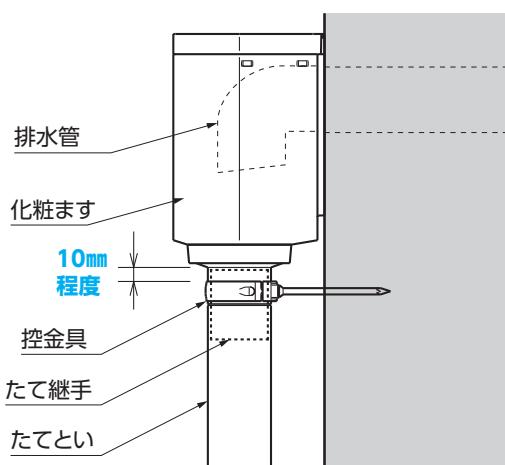
※3階建て以上では、伸縮たて継手と排水管カバーの両方ご使用ください。

排水管カバーが使用できない場合は、伸縮たて継手を2か所ご使用ください。

- 化粧ますを壁に固定しない場合は、たてとい全体が下方向にすべり落ちるのを防止するため、**たて継手から10mm程度下に控金具を取り付けてください。**
 - 排水ますから**10mm程度下に控金具を取り付けてください。**

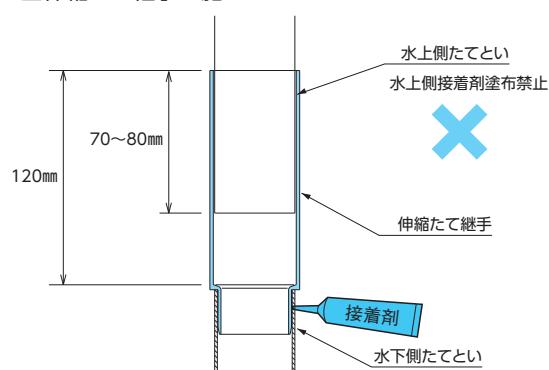
お願い

- 接着剤は必ず当社品をお使いください。
(水漏れ、外れ防止のため)
 - 接着剤がたてといとの外側にはみ出した場合は布などで
すばやくふき取ってください。
(接着剤付着部分の変色防止のため)
 - たてとい切断面のバリは取り除いてください。
(水漏れ防止のため)
 - たてといの差し込み寸法を厳守してください。
(たてといの外れ防止のため)
 - 水上側たてといと伸縮たて継手の水上側は接着剤の
塗布は不要です。
(伸縮吸収のため)
 - 垂直施工のみご使用いただけます。



- 伸縮たて継手にたてといを70~80mm程度差し込むようにして施工します。その際、水上側は接着剤を塗布しないようにしてください。

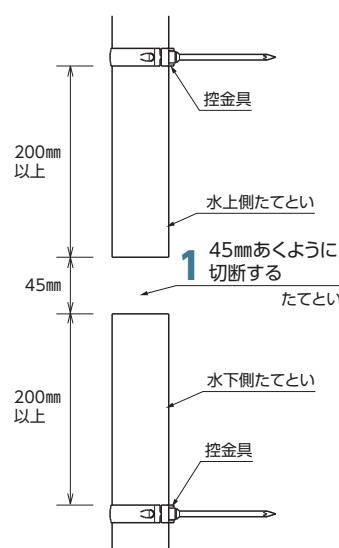
■伸縮たて継手の施工



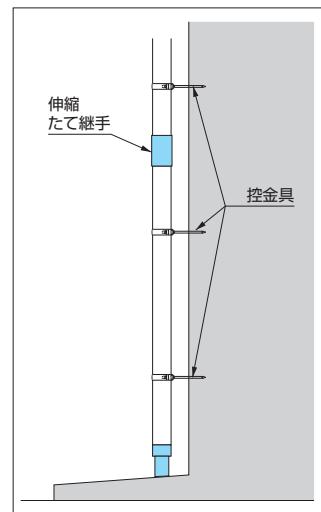
1 たてといを切断する。

【排水管とたてといを接着固定する場合】

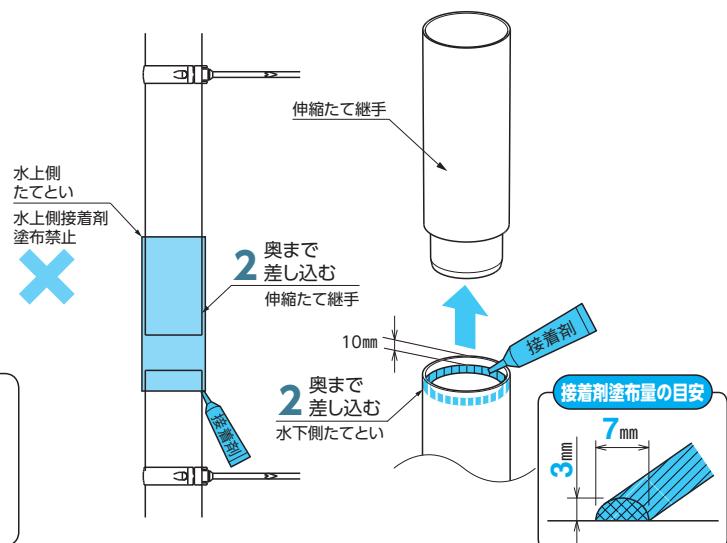
- 水上側たてといと水下側たてといの間を約45mmあくように、また控金具から各たてといの端部は200mm以上離れるように切断し、伸縮たて繼手を取り付ける。(たてとい伸縮吸収のため)



■納まり図



2 たてといを伸縮たて繼手の奥までしっかり差し込む。

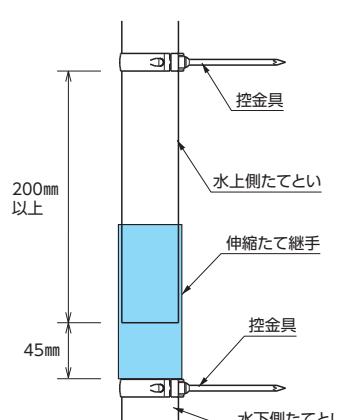
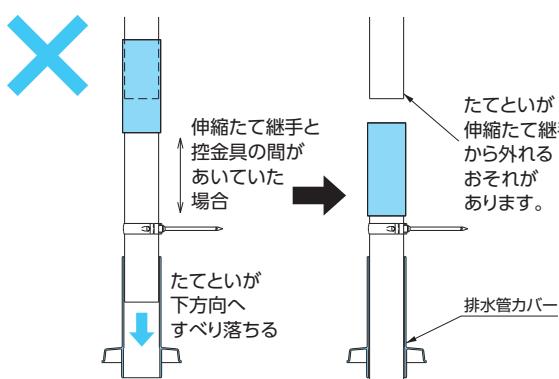


お願い

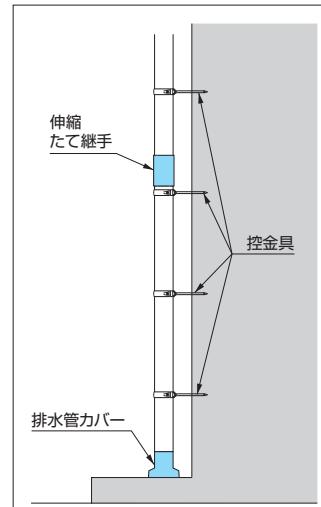
接着剤はたてとい端面から10mm程度の内面に右記量を目安に全周ひも状に切れ目なく塗布してください。低粘度およびはけ塗りタイプの接着剤は使用しないでください。(水漏れ防止のため)

【排水管カバーと伸縮たて繼手の両方を使用する場合】

- 伸縮たて繼手の真下に控金具を取り付ける。(伸縮たて繼手から水下側のたてといがすべり落ちるのを防止するため)



■納まり図



⑥たてといの合流・接着剤・お手入れ方法



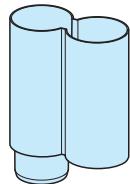
■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

- 大屋根からのたてといとバルコニーの排水をP型集水器を用いて合流させます。

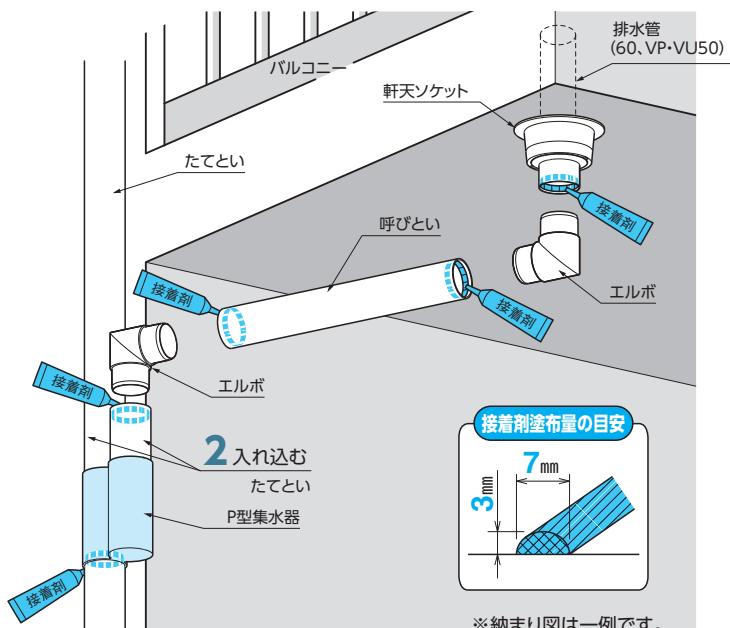
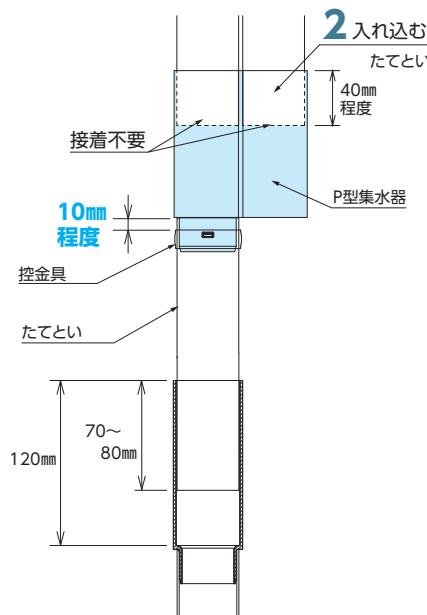
1 P型集水器の施工

- 1 たてといの合流部はP型集水器を使用して施工する。

P型集水器



- 2 たてといはP型集水器の内側40mm程度まで入れ込む。
伸縮たて継手を併用する場合、P型集水器から10mm程度下に控金具を取り付けてください。



2 落葉よけカバーのお手入れ方法

- アーキ・スペックトイを長くご使用いただくために点検、清掃が必要です。
高所作業は危険ですので、必ず専門工事店様で行ってください。
- アーキ・スペックトイの「落葉よけカバー」は年に1回程度定期的な清掃が必要です。
(清掃時期は、使用環境など設置場所により異なります)

チェックポイント

- 軒といの中の「落葉よけカバー」周辺に落ち葉、その他のごみがたまっていないか。